

高島市子ども読書活動推進計画（第4次）

“読書のまち高島”本の楽しみをすべての子どもに

【令和7年度～令和11年度】

令和7年3月

高島市教育委員会

目次

◆第1章 第4次計画の策定について	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の位置づけ	2
3 計画の期間	2
4 計画の対象	2
◆第2章 子どもの読書活動の現状と課題	3
1 子どもの読書活動の現状	3
2 第3次子ども読書活動推進計画の成果と課題	8
(1) 具体的取組み項目ごとの成果と課題	8
◆第3章 子ども読書活動の推進における実態・意識調査	15
1 小中学校の児童生徒を対象とした実態調査	15
(1) 調査概要	15
(2) 調査結果の概要	15
2 保護者を対象とした実態調査	31
(1) 調査概要	31
(2) 調査結果の概要	31
3 子ども読書活動団体等を対象とした意識調査	50
(1) 調査概要	50
(2) 調査結果の概要	50
4 課題の整理	53
(1) 子どもの読書率の向上	53
(2) 家庭における子ども読書活動の推進	53
(3) 市立図書館・学校図書館・園等の連携	53
(4) 読書活動ボランティアの育成と支援	54
(5) デジタル社会に対応した読書環境の整備	54
◆第4章 計画の基本的な考え方	55
1 基本目標	55
2 計画の基本方針（計画の考え方）	55
3 計画の体系	57
4 子ども読書活動推進体制	59
(1) 高島市子ども読書活動推進協議会の設置	59
(2) 関係機関との連携・協力	59
◆第5章 子ども読書活動推進のための取組み	60
【家庭】	60

【地域】	61
(1) 市立図書館における取組み.....	61
(2) 子ども読書活動団体に対する取組み	61
【園等】	62
【小中学校】	63
【広報および啓発】	64
【施策の推進方法】	64
◆第6章 指標の設定	65
資料編.....	66
1 子どもの読書活動の推進に関する法律.....	66
2 高島市子ども読書活動推進計画検討委員会委員名簿.....	68
3 計画策定の経過	69
4 用語解説	70

◆第1章 第4次計画の策定について

1 計画策定の趣旨

平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布・施行され、その中で子どもの読書活動の推進に関する基本的な理念および行動内容を定め「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。」とされています。

本市では、「高島市子ども読書活動推進計画」（第1次計画：平成22年度～26年度、第2次計画：平成27年度～令和元年度、第3次計画：令和2年度～令和6年度）を策定し、子ども読書活動を推進してきました。

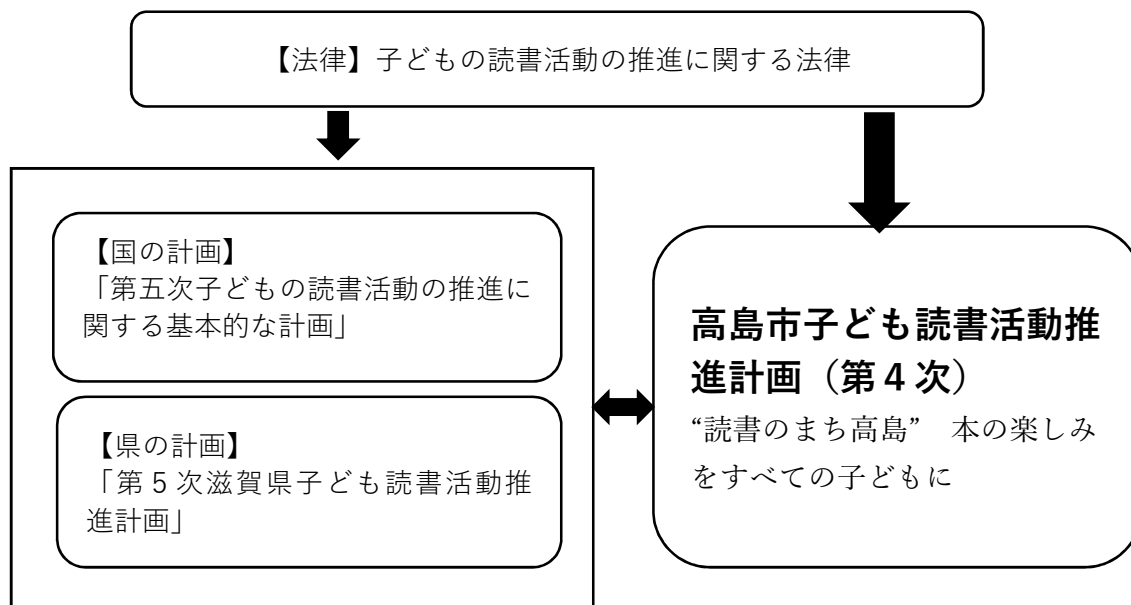
具体的には、子どもの発達段階に応じて、家読（うちどく）の啓発や推進を重点事業に位置づけ、行政や関連団体が連携して家庭での読書活動を支えるよう取り組んできました。

第4次計画の策定にあたっては、令和5年3月に策定された国の「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」や、令和6年3月に策定された「第5次滋賀県子ども読書活動推進計画」に基づき、本市の第3次計画の目標を継承しつつ、現状および課題を踏まえ、さらには市内の児童生徒等を対象にした実態調査を実施したうえで、子どもの発達段階に応じた読書の意義や施策、各領域（家庭・地域、園等、小中学校、市立図書館、子ども読書関係団体など）における具体的な施策を定めました。

特に、第4次計画では、計画期間中における重点事項を定めて取り組むとともに、子どもの読書活動の推進状況を概観できる指標を設定し、毎年度各数値等について総合的に検証を行いながら、子どもの読書活動をさらに推進していきます。

2 計画の位置づけ

この計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）に基づき、「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」および「第5次滋賀県子ども読書活動推進計画」の内容を基本とし、本市の子どもの読書活動推進のため、より一層の読書環境の整備を目指し、市の施策の方向性を総合的・体系的に示すものです。



3 計画の期間

計画期間は、令和7年度から令和11年度までの5年間とします。なお、今後の社会情勢の変化や計画の進捗状況等により必要に応じて見直しを行います。

年度	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
高島市子ども読書活動推進計画	第4次計画					第5次計画					
国の計画	第五次計画			第六次計画					第七次計画		
県の計画	第5次計画				第6次計画						

4 計画の対象

この計画の対象は、子どもの読書活動の推進に関する法律第2条に基づき、0歳からおむね18歳までの子どもとします。

◆第2章 子どもの読書活動の現状と課題

1 子どもの読書活動の現状

読書は、子どもが生きる力を身に付けていくために欠くことができないものであり、その読書活動の推進が求められています。しかし、読書環境においては新型コロナウイルス感染症の拡大や、インターネット・パソコン・スマートフォンなどの様々なIT技術の発展、さらには学校におけるICT環境の整備により、大きく変化しています。

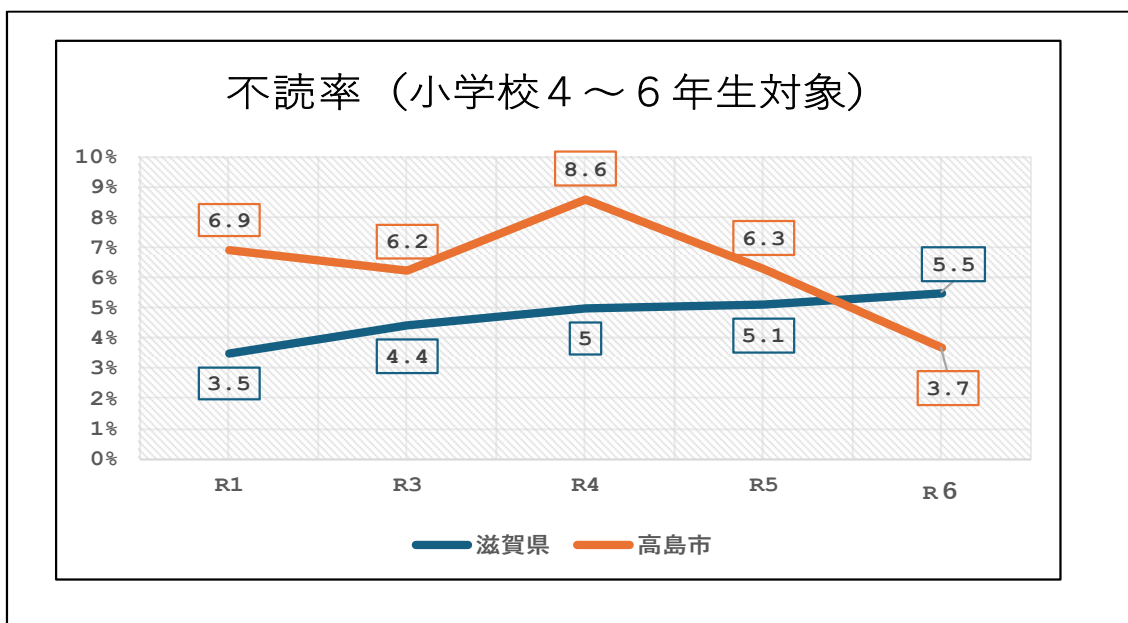
滋賀県子どもの読書活動に関する調査では、5月の1か月間に1冊も本を読まなかった子どもの割合（不読率）を、令和元年度から令和6年度までの過去5年間で滋賀県と高島市で比較した場合、大きく減少しました。

特に、令和4年度から令和6年度にかけては不読率が滋賀県と比べ高島市は大きく下回りました。

【5月の1か月間に1冊も本を読まなかった子どもの割合（不読率）（小学校4～6年生）】
(%)

年度	R元	R3	R4	R5	R6
滋賀県	3.5	4.4	5.0	5.1	5.5
高島市	6.9	6.2	8.6	6.3	3.7

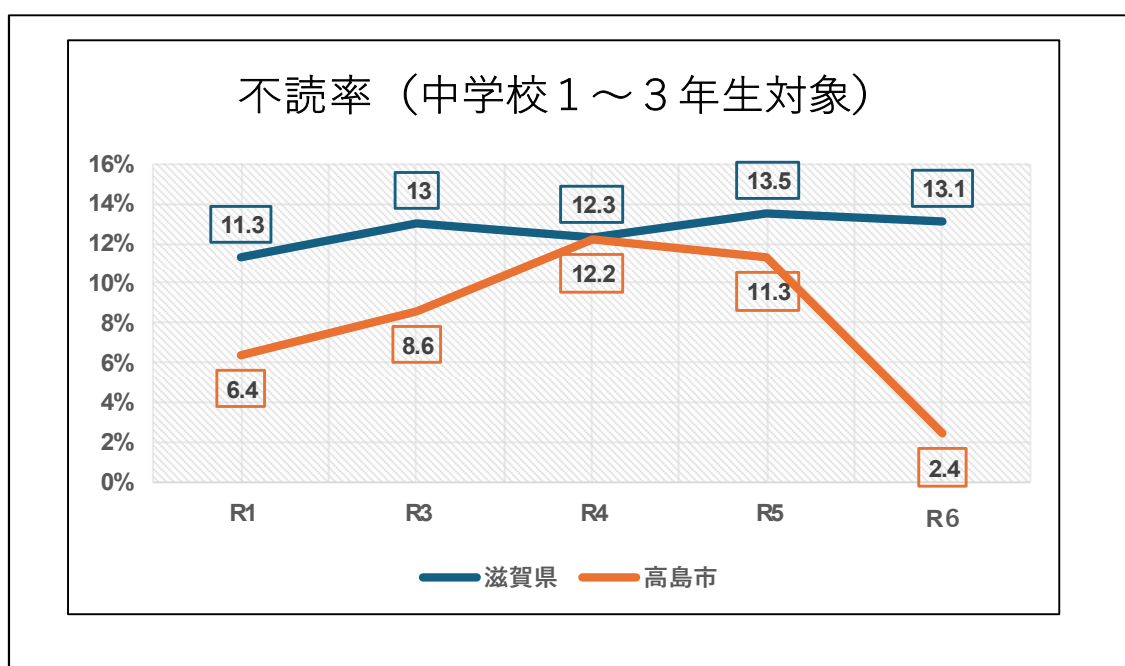
※令和2年度は新型コロナウイルス感染症により調査中止
(滋賀県子どもの読書活動に関する調査より)



【5月の1か月間に1冊も本を読まなかった子どもの割合（不読率）（中学校1～3年生）】
（％）

年度	R 元	R 3	R 4	R 5	R 6
滋賀県	11.3	13.0	12.3	13.5	13.1
高島市	6.4	8.6	12.2	11.3	2.4

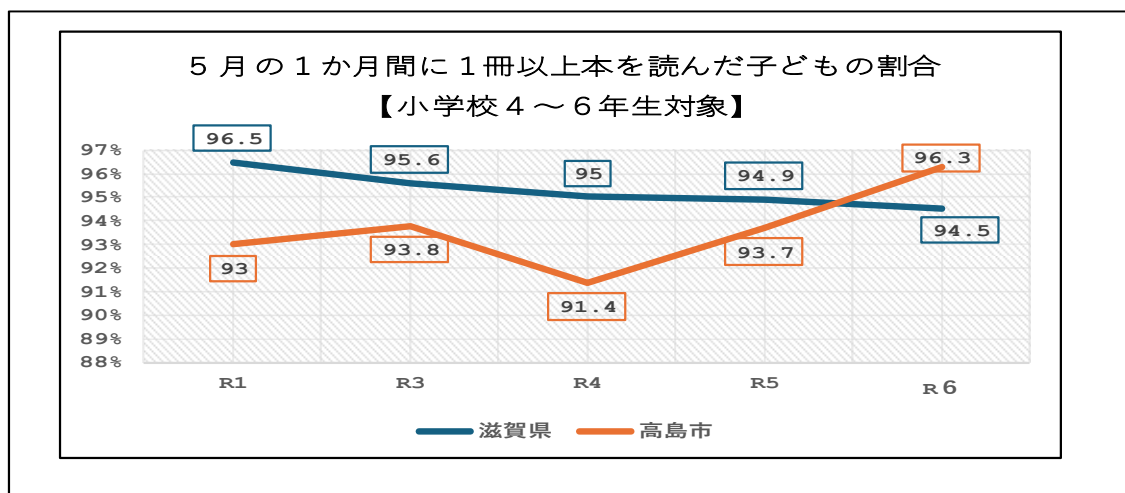
※令和2年度は新型コロナウイルス感染症により調査中止
（滋賀県子どもの読書活動に関する調査より）



【5月の1か月間に1冊以上本を読んだ子どもの割合（読書率）（小学校4～6年生）】（％）

年度	R元	R3	R4	R5	R6
滋賀県	96.5	95.6	95.0	94.9	94.5
高島市	93.0	93.8	91.4	93.7	96.3

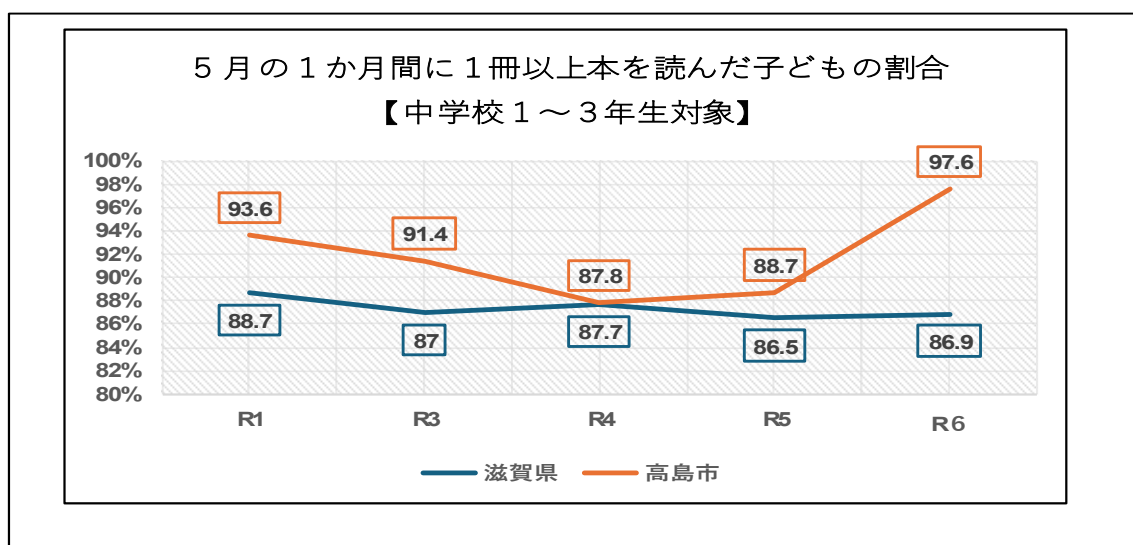
※令和2年度は新型コロナウイルス感染症により調査中止
（滋賀県子どもの読書活動に関する調査より）



【5月の1か月間に1冊以上本を読んだ子どもの割合（読書率）（中学校1～3年生）】（％）

年度	R元	R3	R4	R5	R6
滋賀県	88.7	87.0	87.7	86.5	86.9
高島市	93.6	91.4	87.8	88.7	97.6

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症により調査中止
（滋賀県子どもの読書活動に関する調査より）

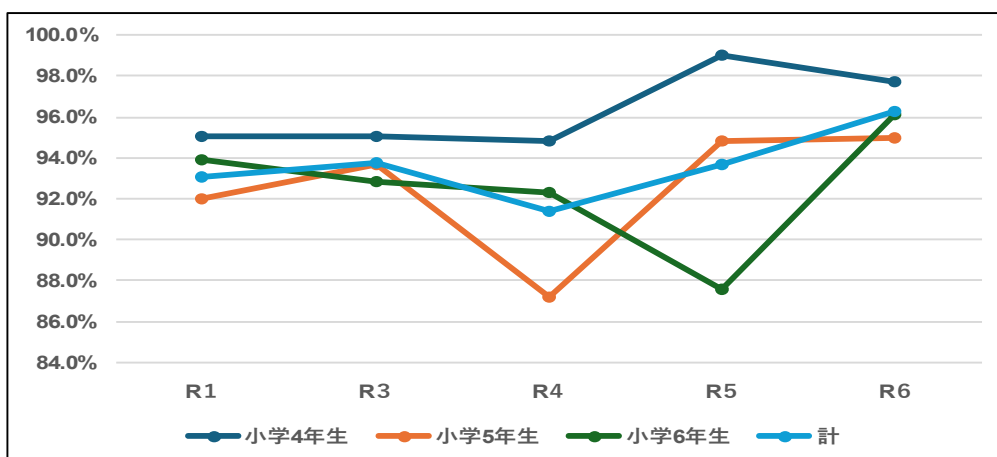


【5月の1か月間に1冊以上本を読んだ子どもの割合（読書率）（高島市で学年別に比較した場合）】（％）

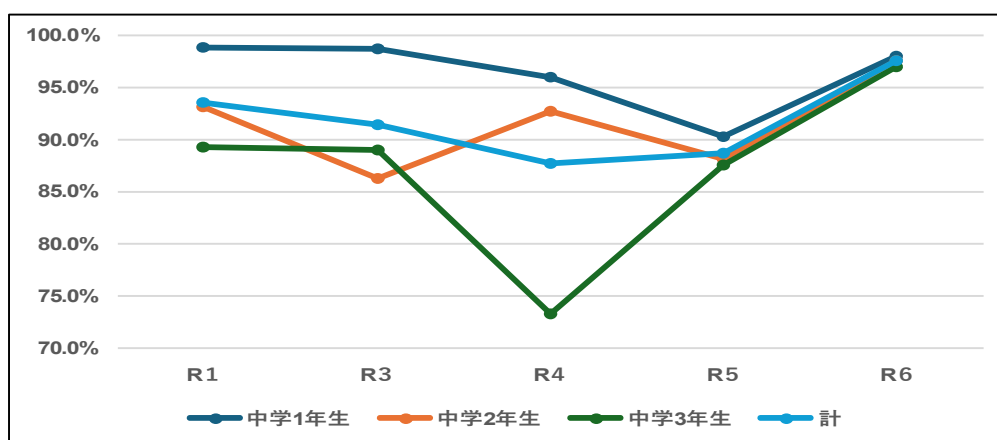
区分	学年	R元	R3	R4	R5	R6
小学校	小学4年生	95.0	95.0	94.8	99.0	97.7
	小学5年生	92.0	93.6	87.2	94.8	95.0
	小学6年生	93.9	92.8	92.3	87.5	96.1
	計	93.1	93.8	91.4	93.7	96.3
中学校	中学1年生	98.9	98.8	96.0	90.3	98.1
	中学2年生	93.2	86.3	92.7	88.2	97.6
	中学3年生	89.2	89.0	73.3	87.5	97.1
	計	93.6	91.4	87.8	88.7	97.6

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症により調査中止
（滋賀県子どもの読書活動に関する調査より）

5月の1か月間に1冊以上本を読んだ子どもの割合【小学校4～6年生対象】



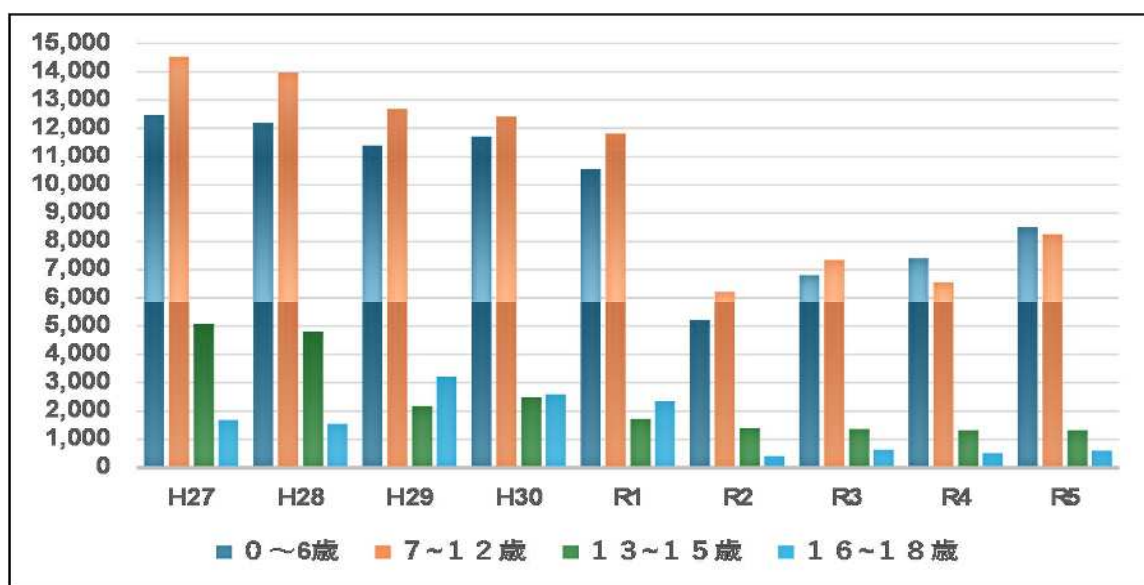
5月の1か月間に1冊以上本を読んだ子どもの割合【中学校1～3年生対象】



【市立図書館の年齢区分別利用者数】

(人)

年齢	R 元	R2	R3	R4	R5
0～6 歳	10,567	5,216	6,809	7,413	8,508
7～12 歳	11,811	6,224	7,351	6,557	8,260
13～15 歳	1,730	1,398	1,374	1,331	1,332
16～18 歳	2,343	406	634	516	603
合計	26,451	13,244	16,168	15,817	18,703



市立図書館では、平成18年度から市内のすべての図書館において図書資料の取り寄せや返却ができるようになり、さらにはインターネットで図書資料の予約ができるようになっています。こうした中、平成28年度と29年度は、16歳から18歳までのヤングアダルト世代の利用者数が増加傾向となっていました。

しかし、令和2年度からは新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が激減し、令和2年度から令和5年度までの推移をみると、0歳から12歳までの利用者数は増加傾向となっていますが、13歳から18歳までの利用者数は横ばい状態となっています。

2 第3次子ども読書活動推進計画の成果と課題

(1) 具体的取組み項目ごとの成果と課題

①ブックスタート事業（図書館）（健康推進課）

【主な取組み内容】

4か月児とその保護者を対象にブックスタート事業を実施し、絵本の読み聞かせなどを行い、乳幼児が読み聞かせの楽しみを知り、家庭での読み聞かせのきっかけづくりとなるよう推進を図りました。

1歳8か月児とその保護者を対象にしたブックスタート事業では、4か月児のブックスタート実施以降、ご家庭での絵本読み聞かせの状況をお伺いし、絵本の読み聞かせの重要性や絵本に触れることの大切さを伝えました。

なお、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行されるまで、絵本の読み聞かせは中止としていました。

【成果と課題】

ブックスタート事業は、令和6年6月で16年目を迎え、これまで延べ約5,000人の乳幼児とその保護者を対象に実施してきました。

ブックスタート事業開始後、市立図書館には、絵本コーナーとは別に、赤ちゃん絵本（0歳から2歳児までを対象にした絵本）のコーナーを作り、保護者が手に取りやすい環境を整えました。

健診会場でのブックスタート事業の実施によって、参加率は向上しますが、健診項目が増加する中、ブックスタート事業に対する時間確保が課題になっています。

事業名			R2	R3	R4	R5	R6
ブック スタート	4か月児	配布人数(人)	278	245	230	203	198
		対象人数(人)	278	245	233	205	200
	1歳8か月児	配布人数(人)	152	279	242	239	230
		対象人数(人)	154	281	255	244	240

令和2年度～令和5年度は実績。令和6年度は見込み



②家読（うちどく）の啓発・推進（図書館・幼児保育課・学校教育課）

【主な取り組み内容】

市立図書館では「図書館だより（6種類）」を発行し、各校園に配布（年4回）しました。また、市立図書館内での特集展示や読書週間啓発ポスターの掲示を行い、家読の啓発を行いました。

園等では、お便りやパンフレットの配布を通して、保護者に家読の啓発やおすすめ絵本の紹介をすることができました。

小中学校では、週末や夏休みを活用した親子での読書活動を啓発し、読書の感想を書いたカードを学校だよりや学校の掲示板で紹介しました。また、子どもたちに読書の楽しさを伝えるため定期的に市立図書館や移動図書館で本を借りる機会を増やしました。

【成果と課題】

図書館だよりに掲載された図書資料を借りようと来館されたものの、貸出し中で借りられないことがあり、来館されても目当ての本がない場合があります。

また、保護者も多忙な中で、子どもと市立図書館に行く時間を捻出することが難しく、電子書籍を活用している家庭も増えているようです。

児童には、読書を宿題や課題として実施することができました。生徒は、家読を啓発しても実施されない状況があります。どのようにすれば生徒が家読を実施できるのか手法を検討する必要があります。

③おはなし会（読み語り含む）（図書館・幼児保育課・学校教育課）

【主な取り組み内容】

市立図書館では月1回、館内でのおはなしサークルによるおはなし会を開催し、子どもが本に親しむ機会の提供を行いました。また、おはなしサークルが小学校等を訪問し実施するおはなし会では、本の選書について図書館司書と相談し、本に対する興味が高まるよう取り組みました。

各校園では、おはなしサークルやボランティアによるおはなし会を開催しました。

【成果と課題】

おはなし会が定着し参加者が増加していますが、おはなし会の参加者の低年齢化により、プログラム構成が難しくなっています。

しかし、おはなし会を通して、幼児は絵本に親しむことができ、おはなしを聞く姿勢や態度を身に付ける機会にもなりました。また、生徒が児童に読み聞かせを行う機会を設けることができました。

おはなしサークルについてはメンバーの高齢化に伴うサークルの休止が発生し、新たな人材の発掘・育成が急務となっています。

事業名			R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
おはなし会	図書館	実施回（回）	1 8	5 8	6 7	7 8	7 3
		参加人数（人）	1 2 6	3 1 9	4 4 2	6 3 5	6 5 0

令和 2 年度～令和 5 年度は実績。令和 6 年度は見込み

④読書指導の充実（学校教育課・図書館）

ア 朝の読書活動

【主な取組み内容】

朝の読書活動はすべての小中学校で実施し、定着させることができました。

【成果と課題】

今後も朝の読書活動を通して、子ども読書が定着し、読書のよさに子どもたちが気づくよう継続して取り組みます。

事業名		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
朝の読書活動	小学校（校）	1 3	1 3	1 3	1 3	1 3
	中学校（校）	6	6	6	6	6

令和 2 年度～令和 5 年度は実績。令和 6 年度は見込み

（小学校／1 3 校・中学校／6 校）

イ ブックトーク

【主な取組み内容】

小中学校が市立図書館の協力を得てブックトークを実施しました（1 クラス単位。小学校 3 0 分、中学校 2 0 分）。また実施後は、ブックトークで紹介した図書と関連図書を、約 1 か月間クラスに貸出して、子どもたちが読めるようにしました。

【成果と課題】

小学校では、ブックトークの実施校が増加傾向にあります。また、中学校においても授業時間を調整するなどして、1 校で実施できるようになりました。

ブックトークは図書を使って授業をするのと同様であるため、演じ手の準備、使用図書の準備にかなりの時間を要します。また、使用した図書は、約 1 か月間その学校に貸し出すため、別の学校では他の図書を利用したブックトークをすることになります。実施校が増加傾向であるため、演じ手の育成や増員が必要です。



事業名		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
ブックトーク	小学校（校）	0	4	6	9	8
	中学校（校）	0	0	1	1	1

令和２年度～令和５年度は実績。令和６年度は見込み
(小学校／１３校・中学校／６校)

※図書館職員および図書館が招集しているブックトークボランティアが行った実施校数

⑤読書の楽しみ伝達事業（社会教育課・地域教育連携室）

【主な取り組み内容】

子どもたちに読書の楽しさを伝えるために、子どもフェスティバルで移動紙芝居を実施しました。また、県が実施する「お家で読書ブース出展」事業の研修会に参加し、先進地事例などについて学びました。

令和４年度には、はじめて生徒が児童やお年寄りを対象に本の読み聞かせを行う取り組みを実施しました。

【成果と課題】

家庭教育事業や市立図書館等の関係機関と連携し、子どもたちに読書の楽しみ方を伝えることができました。

家庭、学校、地域や、子どもの発達段階によっても伝達できる方法が異なるため、対象や発達段階に応じた情報提供と働きかけを行う必要があります。

⑥本の森探検事業または訪問貸出・団体貸出（幼児保育課・学校教育課）

【主な取り組み内容】

各校園において本の森探検事業の実施や、市立図書館からの訪問貸出・団体貸出により、本に親しむ機会を確保しました。

【成果と課題】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大で事業を休止しましたが、感染症法上の位置付けが５類に移行されてからは、各校園で少しずつ再開することができました。

特に幼児や小学校低学年は、本の森探検事業等を通じ、地域の方とのつながりができ、絵本の魅力に触れ、想像力やイメージを膨らませ、文字・数・記号に興味をもつようになり、さらには公共施設でのマナーも学ぶことができました。

⑦学校図書館の充実（学校教育課）

ア 学校図書館の活性化事業

【主な取り組み内容】

小中学校のうち、一部の学校を除いて蔵書管理システムを導入しました。また、令和6年度には学校司書を2人配置しました。

【成果と課題】

小中学校の図書委員会では学校の実態に応じて様々な活動ができました。

学校司書の配置により学校図書館の環境が充実しました。今後は学校司書と地域のボランティアの方、学校の図書館担当者、図書館司書の4者が連携し、子どもが利用しやすい環境を整える必要があります。

⑧青少年向け事業（図書館）

【主な取り組み内容】

市内の県立高校（2校）の学校図書館に、ヤングアダルト向けの新刊案内を行いました。

安曇川高校の「あどまちゼミ」で保育士を目指す高校生のために、おはなしサークルに協力を得て絵本の読み聞かせの講習を行いました。

【成果と課題】

絵本の読み聞かせ講習会では、おはなしサークルの方が読み聞かせの講習に参加した生徒に対して、おはなし会への出演を依頼されるなど、ボランティアを発掘する機会にもなりました。

市立図書館を利用する高校生が少ないことから、引き続き、県立高校と市立図書館で連携を図りながら読書の啓発を行っていく必要があります。

⑨保護者・教職員向け 研修、講座、講演会 絵本の選び方・読み方相談

（幼児保育課・学校教育課）

【主な取り組み内容】

園等では保育者に、おすすめ絵本や園だよりに掲載する情報（絵本の日等）を紹介することができました。また、保育者の新採研修で絵本（読み聞かせ、選定等）について学ぶ機会を設けました。

小中学校では、小中学校教職員向けに教育研究所と連携し、子ども読書の情報や教員向けの本の紹介や情報発信を行いました。また、市の教育研修会図書館部会で研修会を実施し、学校司書の配置に伴う意見交流や、学校図書館の環境づくりについて研修会を行いました。

【成果と課題】

園等では、他の研修や行事等を優先することが多く、絵本等に特化した研修を園等で開催することが難しい状況です。

小中学校では、学校によって実情が異なるものの、引き続き、研修会の開催や優良な実践例の収集などを行い、読書の指導・研究に取り組む必要があります。

⑩ボランティアの養成

ア ブックスタートサポーター（図書館）

【主な取り組み内容】

ブックスタートサポーターの交流会を年3回から4回に増やしました。また、ブックスタートパックを年400パック作成するとともに、ブックスタートのおすすめ絵本リストの更新を行いました。

フォローアップ事業として「赤ちゃんのためのおはなし会」や、ブックスタートサポーター養成講座を開催しました。

【成果と課題】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、交流会や活動等を制限してきましたが、令和5年3月からは、ブックスタートサポーターも健診会場への入室が可能となり、これを機に交流会を再開しました。制限の期間に練習を行ったことで再開後に健診に来られた保護者からはわかりやすいと好評価を得られました。

一方、ブックスタートサポーターは自身も仕事があって、交流会で一同に会することが難しく、文書での報告・やり取りが多くなっており、サポーター同士のつながりづくりを行っていく必要があります。

事業名		R2	R3	R4	R5	R6
交流会	開催回数(回)	0	3	5	5	4
	参加人数(人)	0	11	27	26	20

令和2年度～令和5年度は実績。令和6年度は見込み

イ 図書ボランティア（図書館・NPO法人・学校教育課）

【主な取り組み内容】

図書ボランティアの養成講座の開催については、新型コロナウイルス感染症の影響により、講座を開催することができませんでした。

【成果と課題】

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行したことを踏まえ、図

書ボランティアの養成に向けて、段階的に取り組むなど、講座の持ち方を工夫する必要があります。

⑪計画の広報と啓発等（学校教育課・幼児保育課・図書館・NPO法人）

【主な取り組み内容】

おはなし会のチラシや、図書館だより等に当該計画のロゴマークを必ず印字し、広報を行いました。

各校園では、園だより・学校だより等で啓発を行いました。

【成果と課題】

図書館だよりやおはなし会の開催チラシ等に「読書のまち“高島”本の楽しみをすべての子どもに」の基本目標を印字して啓発を行い、関心層には一定注目をしてもらっていますが、子ども読書活動推進計画の取り組みを知らない層への働きかけができておらず取り組みの広がりに課題があります。

⑫子ども読書活動推進協議会（社会教育課）

【主な取り組み内容】

子ども読書活動推進協議会では、年3回会議を開催し、第3次計画の進捗状況を確認するとともに、事業内容の反省や今後の推進事業内容について協議を行いました。

【成果と課題】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりスムーズな進捗管理ができない状況が続きましたが、年度ごとに事業内容や成果をまとめ、意見交換を行い、実施結果を報告するチラシを作成しました。また、作成したチラシは計画の概要版と一緒に、希望する各校園に配布し、啓発することができました。

今後も進捗管理を行い、わかりやすい事業の実施状況資料の作成に取り組む必要があると考えています。



◆第3章 子ども読書活動の推進における実態・意識調査

1 小中学校の児童生徒を対象とした実態調査

(1) 調査概要

調査目的	本調査は、小中学校の児童生徒を対象に日常の読書活動や支援の状況について把握し、「高島市子ども読書活動推進計画（第4次計画）」の策定に活用することを目的とします。
調査対象	小学2・4・6年生 953人 中学1・2・3年生 1,106人 計2,059人
調査方法	小中学校へ依頼し、一人ひとりに配布されているタブレット端末から回答（インターネット上で回答）
調査期間	令和6年6月24日～令和6年7月12日
回答結果	調査人数：2,059人 回答人数：1,304人 回答率：63.3%

(2) 調査結果の概要

①読書の好き・嫌いについて

(ア) あなたは本を読むことが好きですか。(問2)(SA)

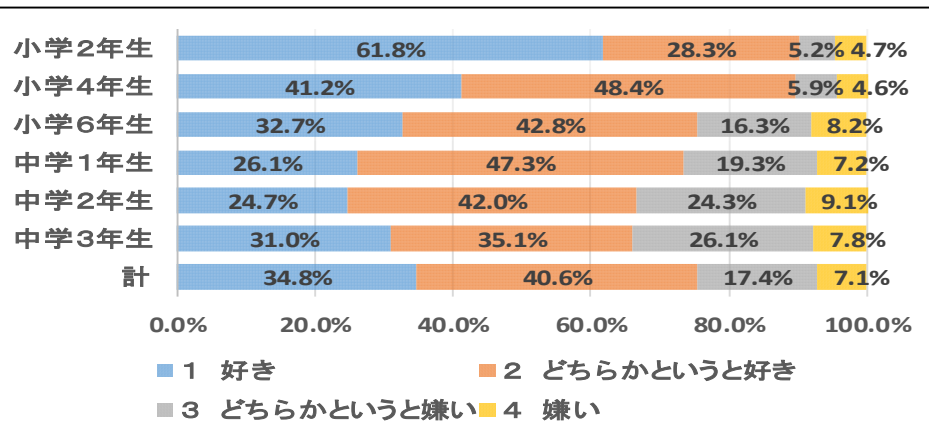
全体で見ると、本を読むことが「好き」と答えた児童生徒は34.8%で、「どちらかというが好き(40.6%)」を合わせると、75.4%の児童生徒が本を読むことが好きであることがわかりました。

学年別に見ると、読書が好き(「好き」「どちらかというが好き」)な児童生徒の割合は、高い学年は小学2年生・4年生では89%を超え、比較的低い学年(中学2年生・3年生)でも約66%を超えています。

「嫌い」「どちらかという嫌い」と答えた児童生徒の割合は、全体では24.5%であり、学年別で見ると中学3年生が最も高い数値(33.9%)となっていました。

	好き	どちらかというが好き	どちらかという嫌い	嫌い	計
小学2年生	118	54	10	9	191
小学4年生	63	74	9	7	153
小学6年生	68	89	34	17	208
中学1年生	69	125	51	19	264
中学2年生	60	102	59	22	243
中学3年生	76	86	64	19	245
合計(人)	454	530	227	93	1,304

問 2



(イ) あなたは家族の方と本の話をしたり、同じ時間に本を読んだりすることがありますか。

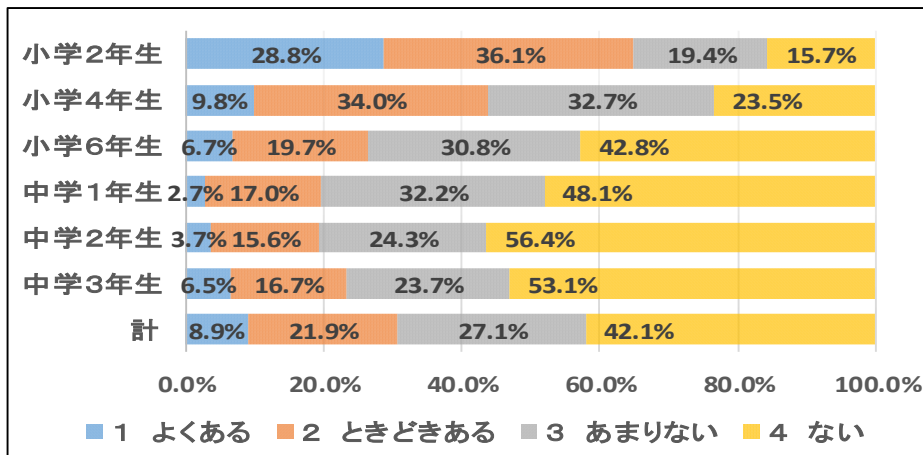
【保護者の方との読書の共有時間】(問5)(SA)

全体で見ると、「よくある」と答えた児童生徒は8.9%で、「ときどきある(21.9%)」、「あまりない(27.1%)」を合わせると、57.9%の児童生徒が家族と読書の時間を共有していることがわかりました。

「ない」と答えた児童生徒の割合は、全体では42.1%であり、学年別で見ると中学2年生が最も高い数値(56.4%)となっていました。

	よくある	ときどきある	あまりない	ない	計
小学2年生	55	69	37	30	191
小学4年生	15	52	50	36	153
小学6年生	14	41	64	89	208
中学1年生	7	45	85	127	264
中学2年生	9	38	59	137	243
中学3年生	16	41	58	130	245
合計(人)	116	286	353	549	1,304

問 5

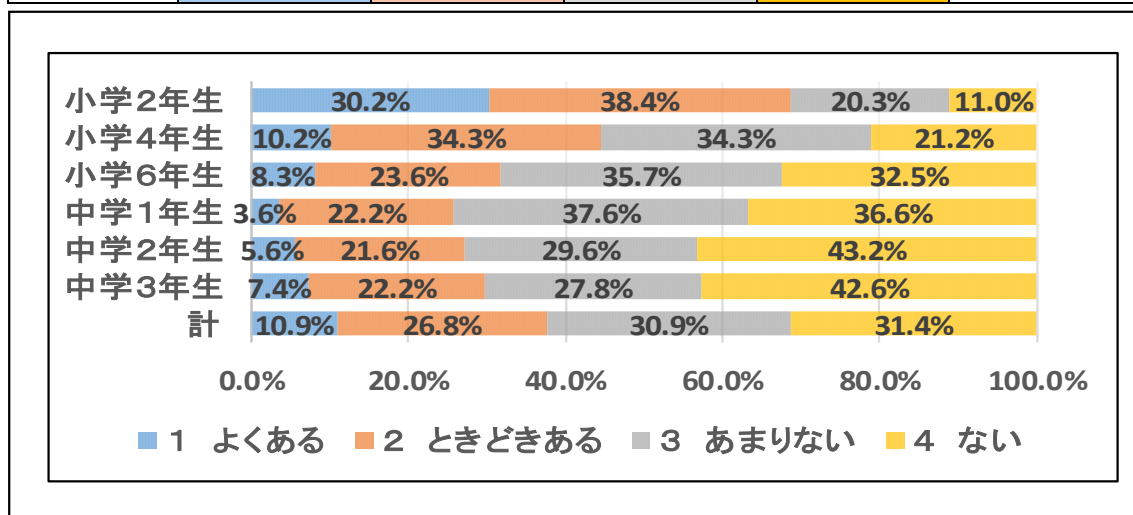


(★) 本を読むことが「好き」「どちらかというと好き」と答えた人（ＳＡ）が、家族の方と本の話をしたり、同じ時間に本を読んだりすることがある人（ＳＡ）（問２と問５のクロス集計）

全体としては、１０．９％が「よくある」と回答しており、「ときどきある（２６．８％）」と合わせると３７．７％が家族の方と本の話をしたり、同じ時間に本を読んだりすることがあると回答していることがわかりました。

学年別に見ると「よくある」「ときどきある」と回答した学年は小学２年生が６８．６％と一番高く、つぎに小学４年生が４４．５％、小学６年生が３１．８％となっていました。一番低いのは中学１年生で「よくある」が３．６％、「ときどきある（２２．２％）」と合わせると２５．８％でした。

	よくある	ときどきある	あまりない	ない	計
小学２年生	52	66	35	19	172
小学４年生	14	47	47	29	137
小学６年生	13	37	56	51	157
中学１年生	7	43	73	71	194
中学２年生	9	35	48	70	162
中学３年生	12	36	45	69	162
合計（人）	107	264	304	309	984



(ウ) あなたは小さいころ、本を読んでもらった（読み聞かせをしてもらった）ことがありますか【幼少期の家庭での読み聞かせ等の経験の有無】（問６）（ＳＡ）

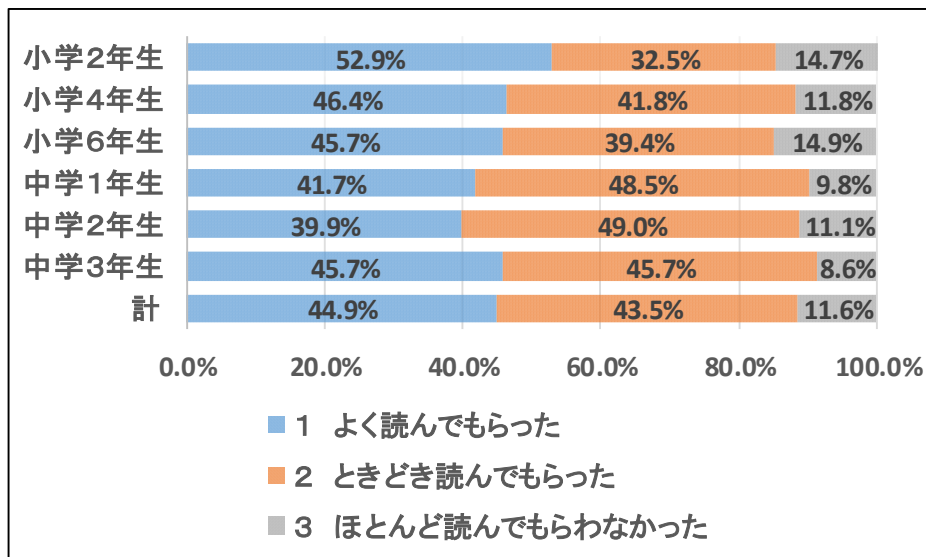
全体としては、４４．９％が「よくあった」と回答しており、「ときどき読んでもらった（４３．５％）」と合わせると８８．４％が小さいときに本を読んでもらったと回答していることがわかりました。

学年別に見てもその「よくあった」「ときどき読んでもらった」の合計は８５％を超えています。

「ほとんど読んでもらわなかった」と答えた児童生徒の割合は、全体では１１．６％であり、学年別で見ると小学６年生が最も高い数値（１４．９％）となっていました。

	よく読んでもらった	ときどき読んでもらった	ほとんど読んでもらわなかった	計
小学２年生	101	62	28	191
小学４年生	71	64	18	153
小学６年生	95	82	31	208
中学１年生	110	128	26	264
中学２年生	97	119	27	243
中学３年生	112	112	21	245
合計（人）	586	567	151	1,304

問 6

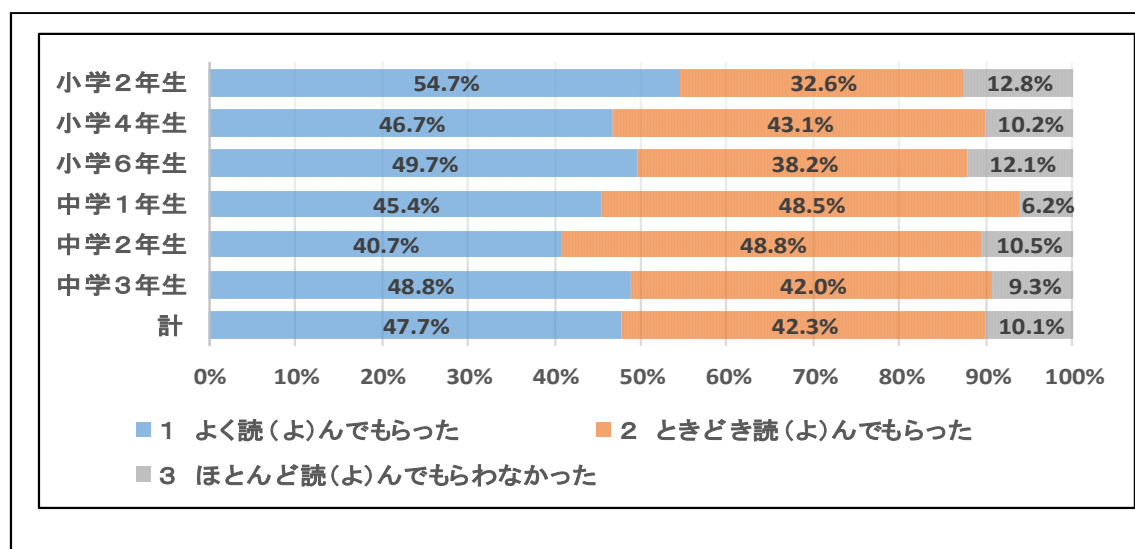


(★) 本を読むことが「好き」「どちらかというと好き」と答えた人（ＳＡ）が、小さいころ本を読んでもらった(読み聞かせをしてもらった)ことがある人（ＳＡ）(問２と問６のクロス集計)

全体としては、４７．７％が「よく読んでもらった」と回答しており、「ときどき読んでもらった（４２．３％）」と合わせると９０％が小さいころ本を読んでもらったと回答していることがわかりました。

学年別に見ると「よく読んでもらった」「ときどき読んでもらった」と回答した学年は中学１年生が９３．９％と一番高く、つぎに中学３年生が９０．８％、小学４年生が８９．８％となっていました。「ほとんど読んでもらわなかった」と回答した学年で一番高いのは小学２年生で１２．８％、次に小学６年生が１２．１％でした。

	よく読んでもらった	ときどき読んでもらった	ほとんど読んでもらわなかった	計
小学２年生	94	56	22	172
小学４年生	64	59	14	137
小学６年生	78	60	19	157
中学１年生	88	94	12	194
中学２年生	66	79	17	162
中学３年生	79	68	15	162
合計（人）	469	416	99	984



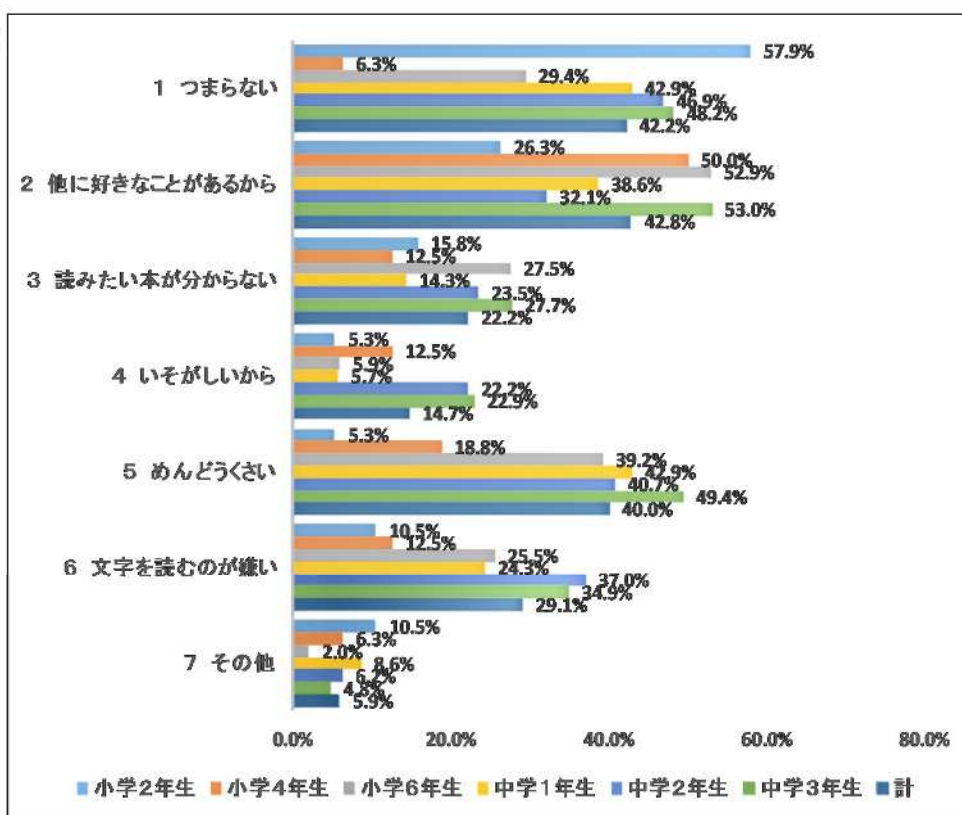
(エ) 本を読むことが「どちらかという嫌い」「嫌い」と回答した人（３２０人）の理由【嫌いな理由】（問２－２）（MA）

全体を見ると、本が嫌いな理由は「他に好きなことがあるから（４２．８％）」が最も多く、次いで「つまらない（４２．２％）」「めんどくさい（４０．０％）」となっていました。

学年別に見ると、小学２年生が「つまらない」と回答している人が多く、「他に好きなことがあるから」と回答しているのは中学３年生が一番多いことがわかりました。

	つまらない	他に好きなことがあるから	読みたい本が分からない	いそがしいから	めんどくさい	文字を読むのが嫌い	その他
小学２年生	11	5	3	1	1	2	2
小学４年生	1	8	2	2	3	2	1
小学６年生	15	27	14	3	20	13	1
中学１年生	30	27	10	4	30	17	6
中学２年生	38	26	19	18	33	30	5
中学３年生	40	44	23	19	41	29	4
合計（人）	135	137	71	47	128	93	19

問２－２



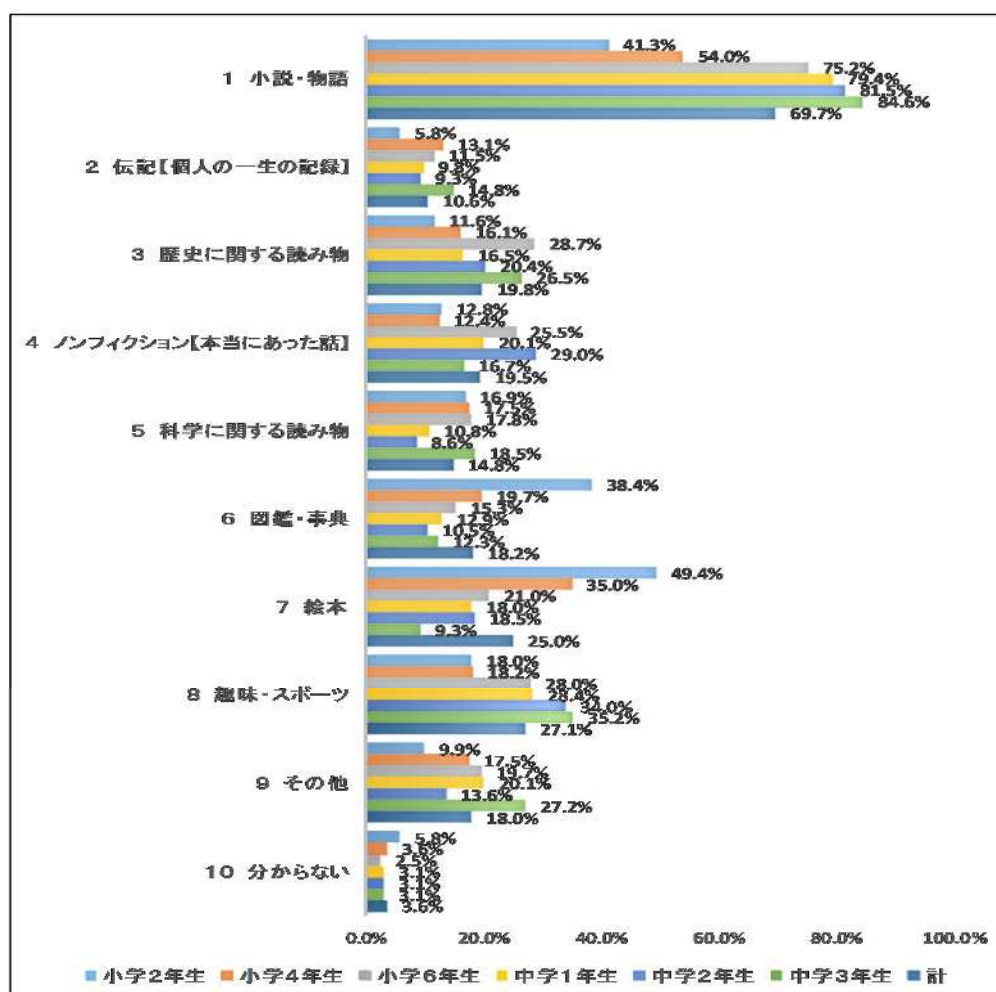
②好きな本のジャンル

(オ) 問 2 で本を読むことが「好き」「どちらかという好き」と回答した人(984人)が好きな本(問2-1)(MA)

全体を見ると、最も多く読まれている分野は「小説・物語」であり、次いで「趣味やスポーツ」、「絵本」となっていました。逆に、最も読まれていない分野は「伝記」であり、学年別で見ても低い傾向がうかがえました。

	小説・物語	伝記【個人の一生の記録】	歴史に関する読み物	ノンフィクション【本当にあった話】	科学に関する読み物	図鑑・事典	絵本	趣味・スポーツ	その他	分からない
小学2年生	71	10	20	22	29	66	85	31	17	10
小学4年生	74	18	22	17	24	27	48	25	24	5
小学6年生	118	18	45	40	28	24	33	44	31	4
中学1年生	154	19	32	39	21	25	35	55	39	6
中学2年生	132	15	33	47	14	17	30	55	22	5
中学3年生	137	24	43	27	30	20	15	57	44	5
合計(人)	686	104	195	192	146	179	246	267	177	35

問 2-1



③本を読む場所について

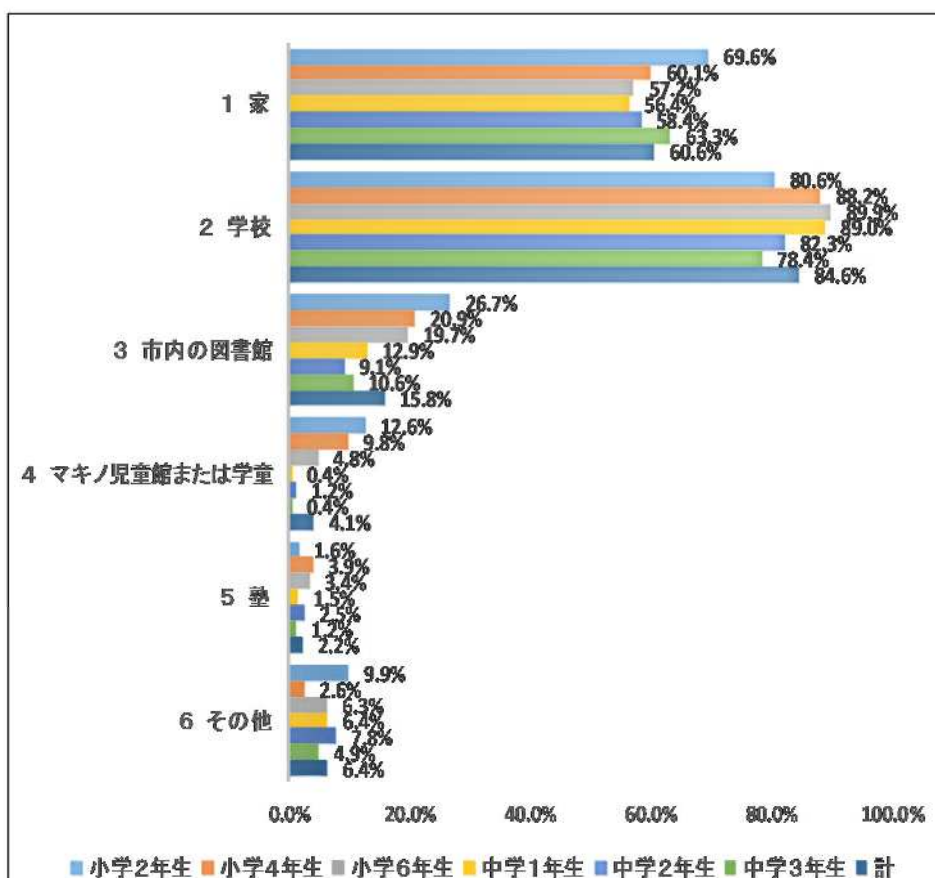
(カ) あなたはどこで本を読みますか。(問3)(MA)

全体を見ると、「学校(84.6%)」が最も多く、次いで「家(60.6%)」「市内の図書館(15.8%)」となっていました。

学年別に見ると、「家」で読書をしていると回答している学年は、小学2年生(69.6%)が一番多く、次に中学3年生(63.3%)、小学4年生(60.1%)となっていました。

	家	学校	市内の図書館	マキノ児童館 または学童	塾	その他
小学2年生	133	154	51	24	3	19
小学4年生	92	135	32	15	6	4
小学6年生	119	187	41	10	7	13
中学1年生	149	235	34	1	4	17
中学2年生	142	200	22	3	6	19
中学3年生	155	192	26	1	3	12
合計(人)	790	1,103	206	54	29	84

問3



④家読（うちどく）の実施状況

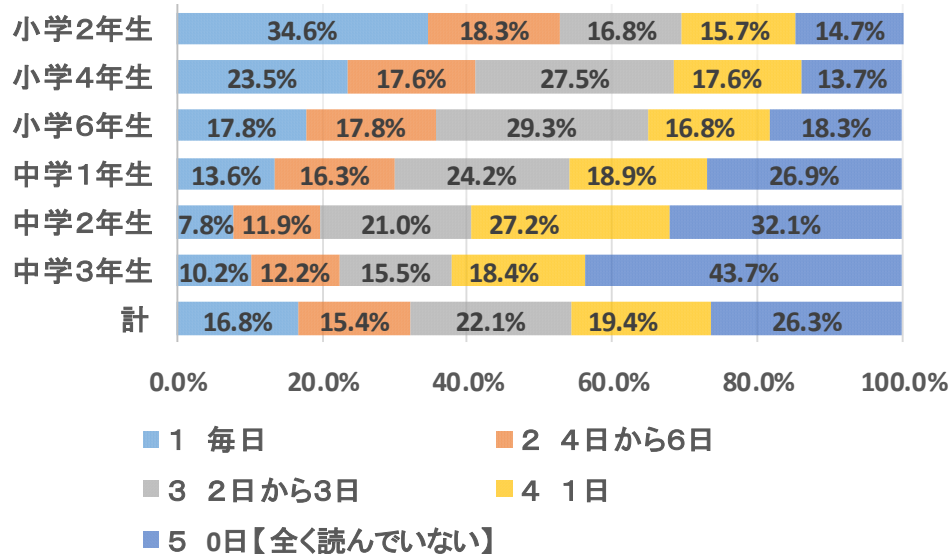
（キ）あなたは家で読書をするとき、1週間で何日本を読みますか。（問4）（S A）

全体を見ると、1週間で1日以上本を読んでいる73.7%の人が家で読書をしているということがわかりました。また、「0日【全く読んでいない】」人は26.3%ありました。

学年別に見ると、小学2・4・6年生では80%以上が家で読書をし、中学校では学年が上がるにつれ、減少する傾向がみられました。

	毎日	4日から6日	2日から3日	1日	0日【全く読んでいない】	計
小学2年生	66	35	32	30	28	191
小学4年生	36	27	42	27	21	153
小学6年生	37	37	61	35	38	208
中学1年生	36	43	64	50	71	264
中学2年生	19	29	51	66	78	243
中学3年生	25	30	38	45	107	245
合計（人）	219	201	288	253	343	1,304

問 4



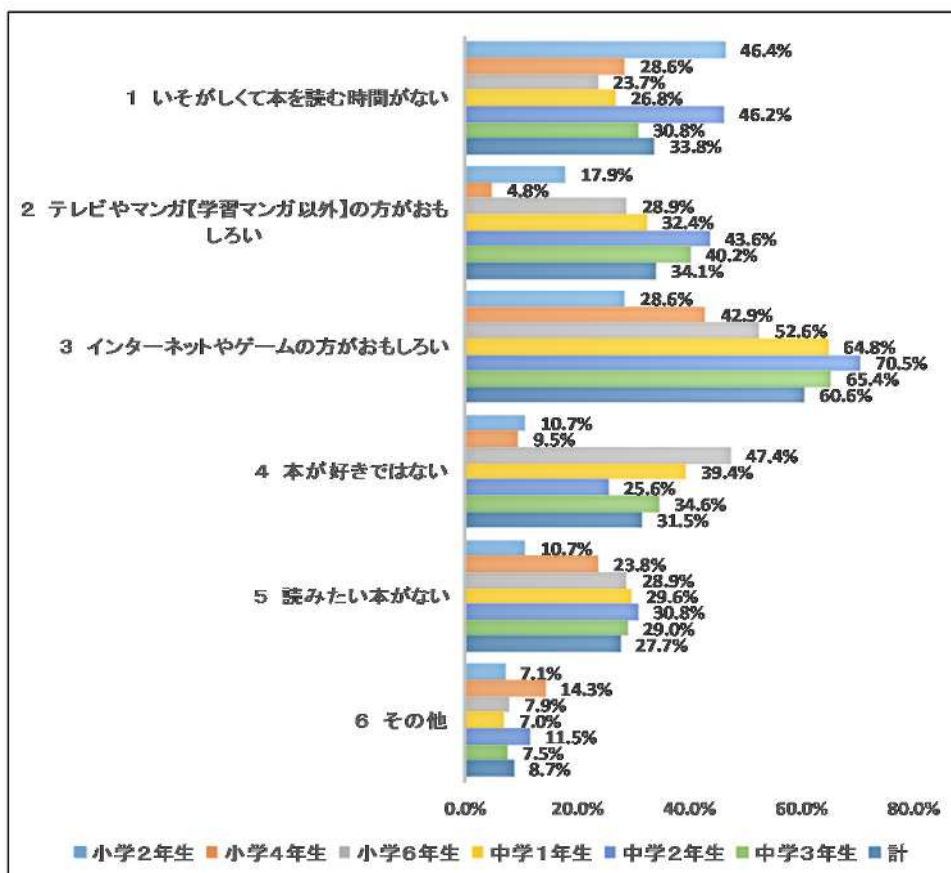
(ク) 家で「全く読んでいない」と回答した人(343人)の理由【家読をしない理由】
(問4-1)(MA)

全体を見ると、本を読まない理由は「インターネットやゲームの方がおもしろい(60.6%)」が最も多く、次いで「テレビやマンガ【学習マンガ以外】の方がおもしろい(34.1%)」となっていました。

学年別に見ると、「インターネットやゲームの方がおもしろい」と回答しているのは中学1、2、3年生が多く、小学2年生、中学2年生では「いそがしくて本を読む時間がない」を理由に挙げている人が多くなっていました。

	いそがしくて 本を読む時間 がない	テレビやマン ガ【学習マンガ 以外】の方がお もしろい	インターネッ トやゲームの 方がおもしろ い	本が好きで はない	読みたい本 がない	その他
小学2年生	13	5	8	3	3	2
小学4年生	6	1	9	2	5	3
小学6年生	9	11	20	18	11	3
中学1年生	19	23	46	28	21	5
中学2年生	36	34	55	20	24	9
中学3年生	33	43	70	37	31	8
合計(人)	116	117	208	108	95	30

問4-1



⑤市立図書館(訪問貸出を含む)の利用状況

(ケ) 市内の図書館(訪問貸出含む)を1か月にどのくらい利用しますか。(問7)

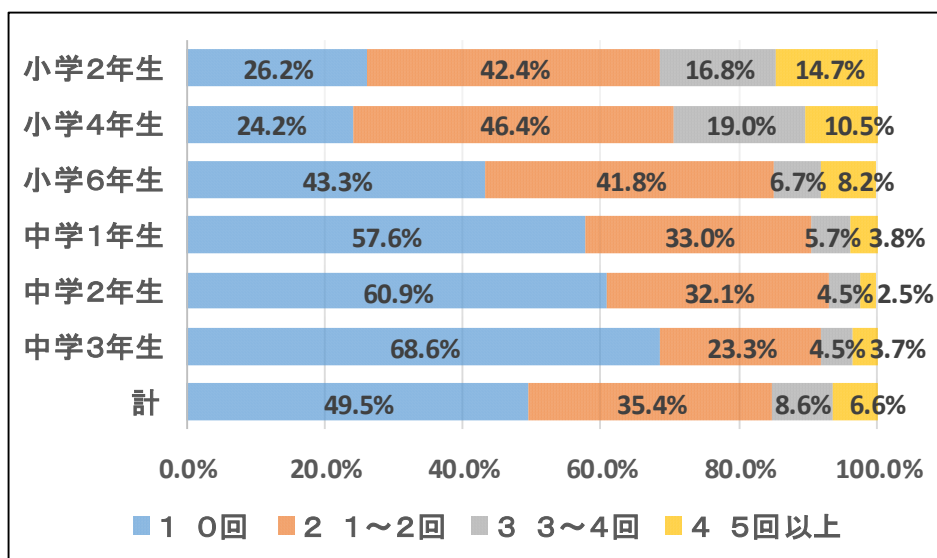
(S A)

全体を見ると、49.5%の人が市立図書館を利用していないことがわかりました。一方で、50.5%の人が1回以上利用しており、中でも5回以上利用している人は6.6%いることがわかりました。

学年別に見ると、年代が上がるにつれて図書館を利用しない傾向が見受けられ、中学3年生になると68.6%が利用していないと回答していました。

	0回	1～2回	3～4回	5回以上	計
小学2年生	50	81	32	28	191
小学4年生	37	71	29	16	153
小学6年生	90	87	14	17	208
中学1年生	152	87	15	10	264
中学2年生	148	78	11	6	243
中学3年生	168	57	11	9	245
合計(人)	645	461	112	86	1,304

問7

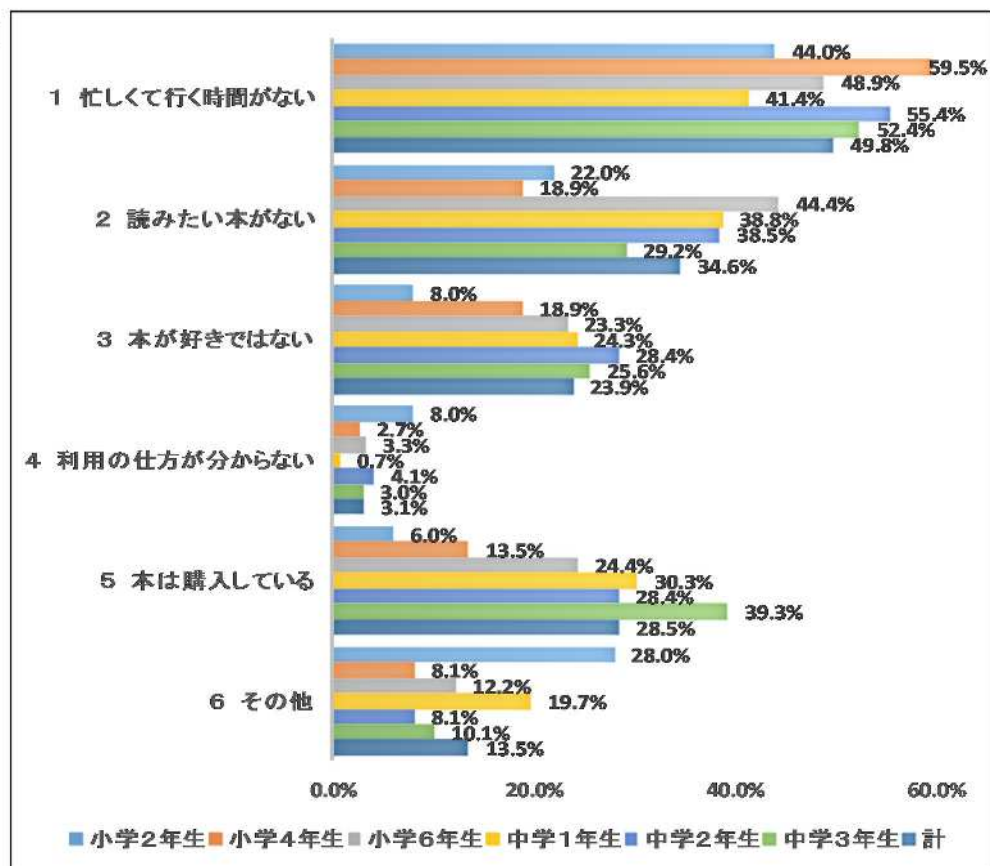


(コ) 市内の図書館(訪問貸出含む)の利用回数を「0回」と回答した人(645人)の理由(問7-1)(MA2)

全体的な傾向としては、「忙しくて行く時間がない」が全体の約半数を占めていました。また、「読みたい本がない」という回答は全体では34.6%あり、小学6年生では44.4%となっており、中学1年生・2年生では約38%を超えています。これは本人の読書意欲が低いことによるものか、市立図書館の蔵書と本人の求める本のギャップが理由かは明らかではありません。

	忙しくて行く時間がない	読みたい本がない	本が好きではない	利用の仕方が分からない	本は購入している	その他
小学2年生	22	11	4	4	3	14
小学4年生	22	7	7	1	5	3
小学6年生	44	40	21	3	22	11
中学1年生	63	59	37	1	46	30
中学2年生	82	57	42	6	42	12
中学3年生	88	49	43	5	66	17
合計(人)	321	223	154	20	184	87

問7-1



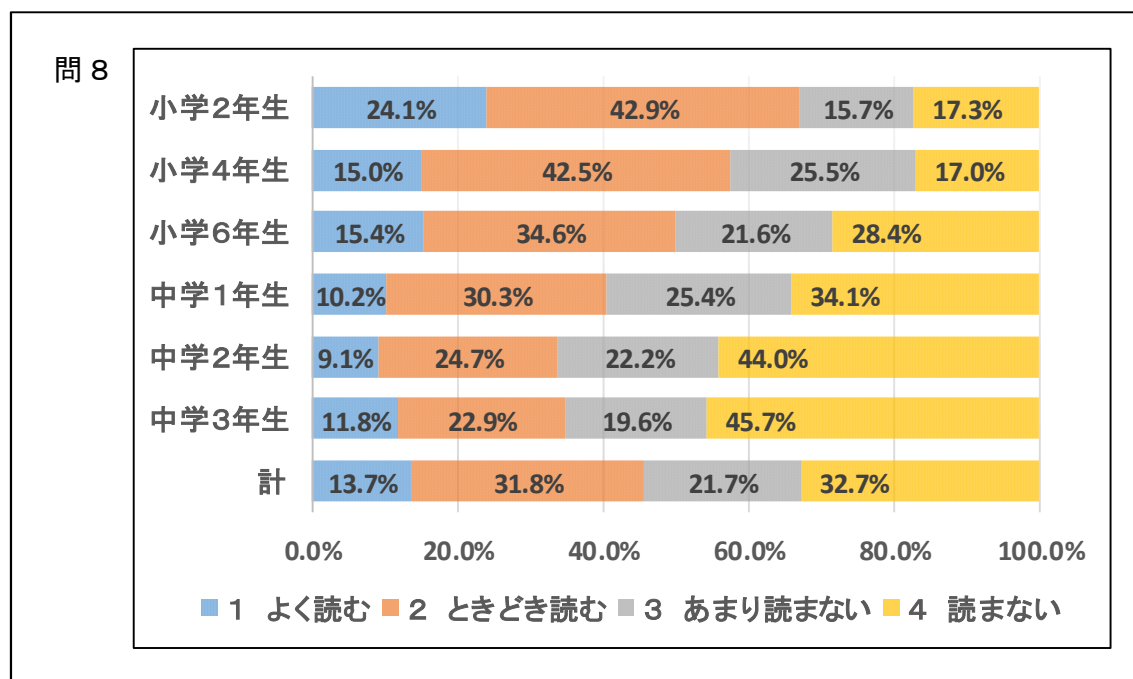
⑥学校での読書時間

(サ) あなたは、学校で休み時間や放課後に本を読んでいますか。(朝読書の時間はのぞきます。)(問8)(SA)

全体で見ると、本を「よく読む」児童生徒は13.7%でした。一方、「あまり読まない(21.7%)」、「読まない(32.7%)」と回答した児童生徒は54.4%にのぼっていました。

学年別に見ると、「あまり読まない」「読まない」と回答した児童生徒の割合は、中学2年生で66.2%、中学3年生で65.3%、中学1年生で59.5%、とおよそ半数近くを示しており、学年が上がるにつれ学校での読書時間が短くなっている傾向が見受けられました。

	よく読む	ときどき読む	あまり読まない	読まない	計
小学2年生	46	82	30	33	191
小学4年生	23	65	39	26	153
小学6年生	32	72	45	59	208
中学1年生	27	80	67	90	264
中学2年生	22	60	54	107	243
中学3年生	29	56	48	112	245
合計(人)	179	415	283	427	1,304



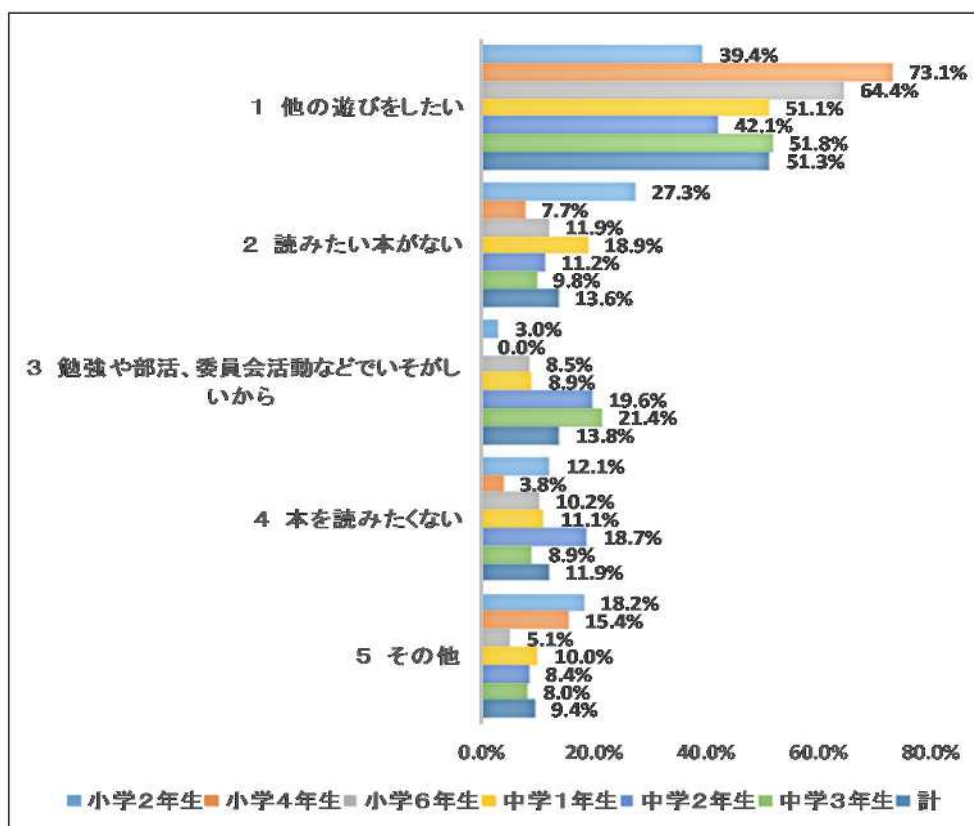
(シ) 学校で「本を読まない」と答えた人(427人)の理由(問8-1)(SA)

全体を見ると、本を読まない理由は「他の遊びをしたい(51.3%)」が最も多く、次いで「勉強や部活、委員会活動などでいそがしいから(13.8%)」「読みたい本がない(13.6%)」となっていました。

学年別に見ると、「他の遊びをしたい(73.1%)」と回答しているのは小学4年生が多く、次いで小学6年生となっており、中学1年生、3年生でも約51%が本を読まない理由に挙げていました。また、中学2年生、3年生では「勉強や部活、委員会活動などでいそがしいから」が多く選択されていました。

	他の遊びをしたい	読みたい本がない	勉強や部活、委員会活動などでいそがしいから	本を読みたくない	その他
小学2年生	13	9	1	4	6
小学4年生	19	2	0	1	4
小学6年生	38	7	5	6	3
中学1年生	46	17	8	10	9
中学2年生	45	12	21	20	9
中学3年生	58	11	24	10	9
合計(人)	219	58	59	51	40

問 8 - 1



⑦電子書籍の利用状況について

(ス) あなたはスマートフォン、タブレット、パソコンなどで本を読むことがありますか。(問9) (SA)

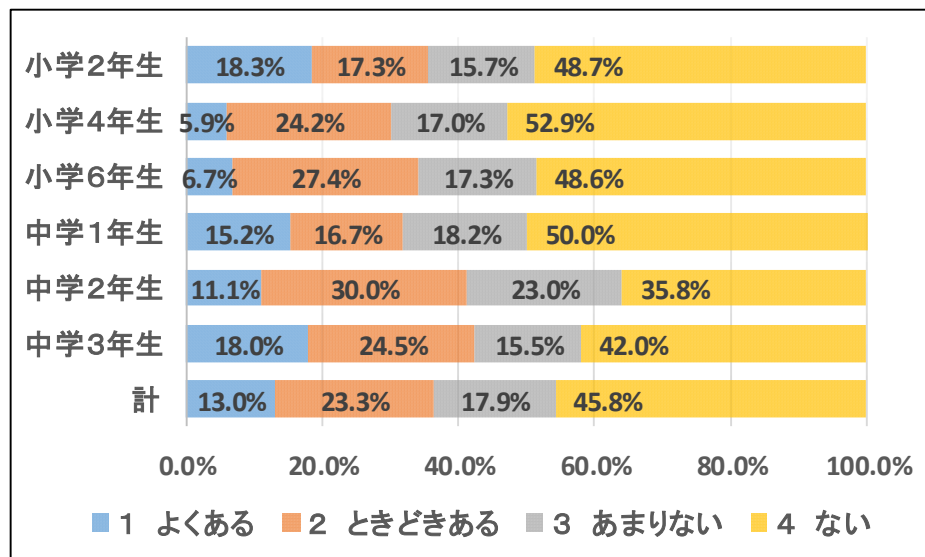
全体を見ると、電子書籍を利用して本を読むことがある人は「よくある(13.0%)」「ときどきある(23.3%)」「あまりない(17.9%)」を合わせると54.2%ありました。

「よくある」を学年別に見ると、小学2年生が18.3%と最も高く、次に中学3年生の18.0%、中学1年生の15.2%でした。

「ない」と回答しているのは小学4年生が多く、次いで中学1年生となっていました。

	よくある	ときどきある	あまりない	ない	計
小学2年生	35	33	30	93	191
小学4年生	9	37	26	81	153
小学6年生	14	57	36	101	208
中学1年生	40	44	48	132	264
中学2年生	27	73	56	87	243
中学3年生	44	60	38	103	245
合計(人)	169	304	234	597	1,304

問9

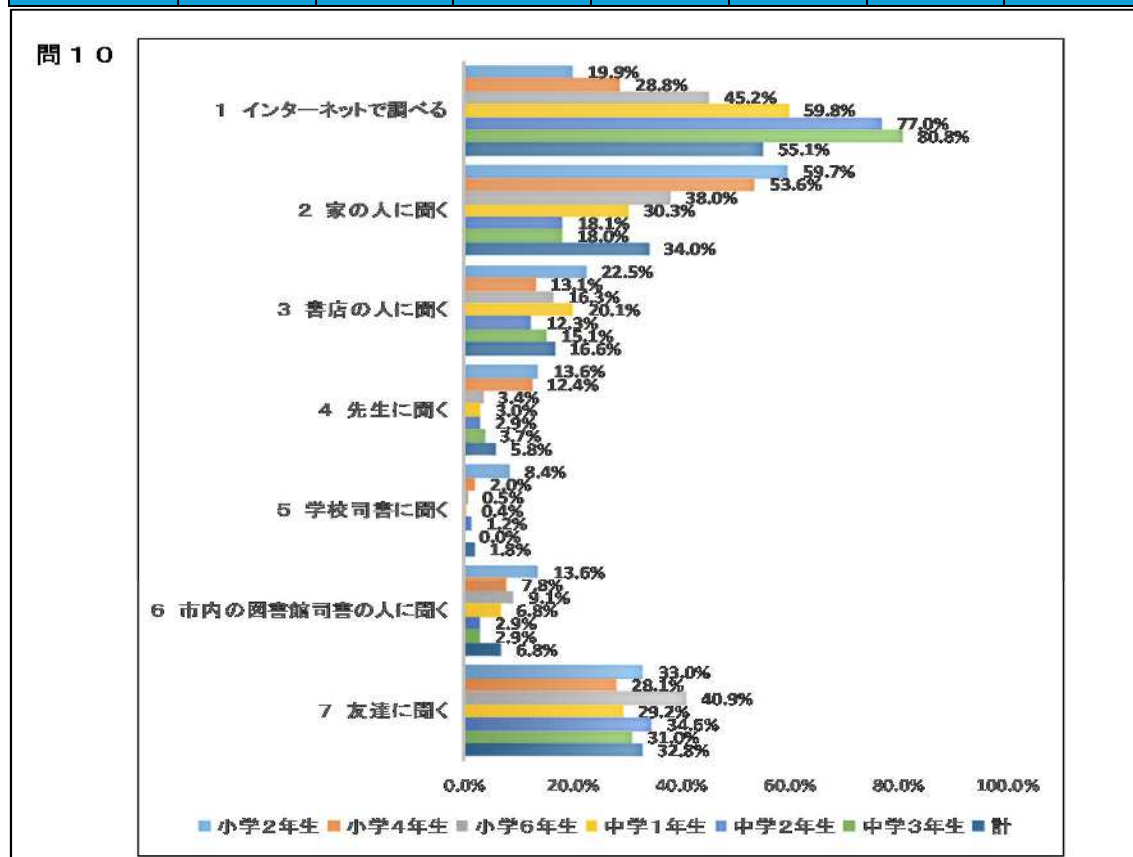


⑧学校司書設置に伴う状況把握

(セ) あなたは、読みたい本を探すとき、誰に聞きますか。(問10)(MA2)

全体を見ると、「インターネットで調べる」が55.1%、次に「家の人に聞く」(34.0%)、「友達に聞く」(32.8%)となっていました。学年別でみると、「インターネットで調べる」は学年が上がるに連れて高くなり、「家の人に聞く」と答える人の割合は学年が上がるに連れて低くなる傾向がありました。また、「友達に聞く」は全学年において30%前後あり、本が友人同士を媒介する一つのコミュニケーション要素となり得ることがわかりました。

	インターネットで調べる	家の人に聞く	書店の人に聞く	先生に聞く	学校司書に聞く	市内の図書館司書の人に聞く	友達に聞く
小学2年生	38	114	43	26	16	26	63
小学4年生	44	82	20	19	3	12	43
小学6年生	94	79	34	7	1	19	85
中学1年生	158	80	53	8	1	18	77
中学2年生	187	44	30	7	3	7	84
中学3年生	198	44	37	9	0	7	76
合計(人)	719	443	217	76	24	89	428



2 保護者を対象とした実態調査

(1) 調査概要

調査目的	本調査は、保育園や子ども園に通園している幼児の保護者ならびに小学生および中学生の保護者を対象に、日常の読書活動や支援の状況について把握し、「高島市子ども読書活動推進計画（第4次計画）」の策定に活用することを目的とします。		
調査対象	4歳児の保護者	275人	
	小学4年生の保護者	321人	
	中学3年生の保護者	397人	計993人
調査方法	各保育園・こども園ならびに小中学校を通じてアンケート調査票を配布し、インターネットで回答		
調査期間	令和6年6月24日～令和6年7月19日		
回答結果	調査人数：993人 回答人数：372人 回答率：37.5%		

(2) 調査結果の概要

①あなたとお子様の読書の実施状況

(ア) あなたは本を読むことが好きですか。(問2)(SA)

【保護者の方の読書の好き・嫌いについて】

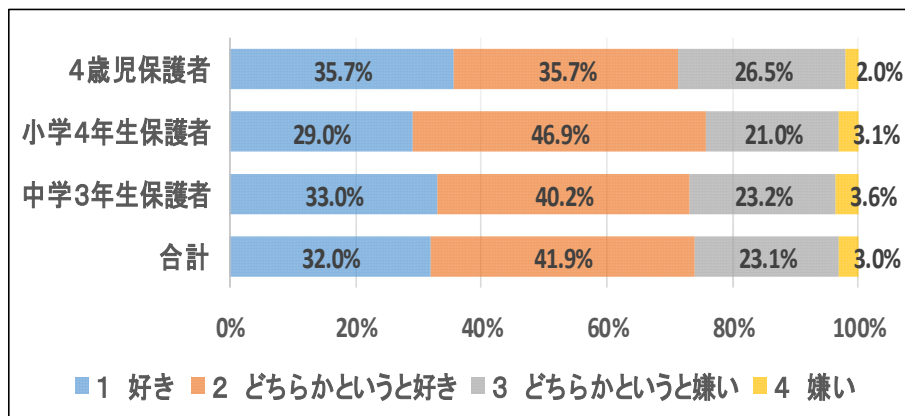
全体で見ると、本を読むことが「好き」と答えた保護者は32.0%で、「どちらかという人喜欢(41.9%)」を合わせると、73.9%の保護者が本を読むことが好きであることがわかりました。

子どもの対象別に見ると、読書が好き(「好き」「どちらかという人喜欢)」な保護者の割合は、小学4年生の保護者が75.9%と一番高い数値でした。

「嫌い」「どちらかという人嫌い」と答えた保護者の割合は、全体では26.1%あり、子どもの対象別で見ると4歳児の保護者が最も高い数値(28.5%)となっていました。

	好き	どちらかという人喜欢	どちらかという人嫌い	嫌い	計
4歳児の保護者	35	35	26	2	98
小学4年生の保護者	47	76	34	5	162
中学3年生の保護者	37	45	26	4	112
合計(人)	119	156	86	11	372

問 2



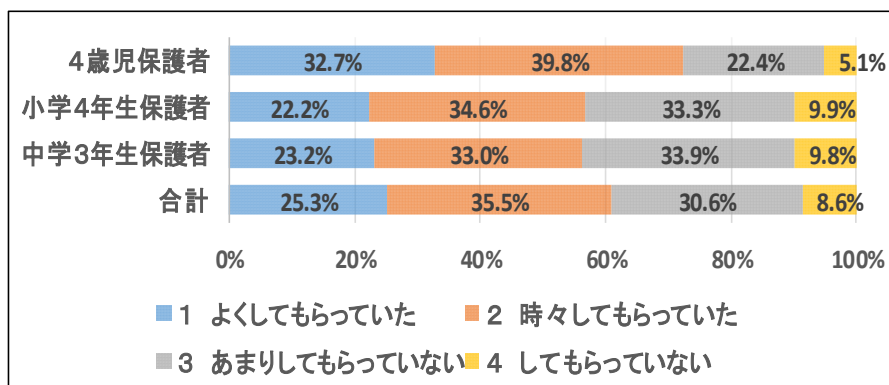
(イ) あなたは子どもの頃、読み聞かせをしてもらったことがありますか。(問3)

【保護者自身が読み聞かせをしてもらっていたかの有無】(S A)

全体で見ると、「よくしてもらった」と答えた保護者は25.3%で、「ときどきしてもらった(35.5%)」を合わせると、60.8%の保護者が子どもの頃読み聞かせをしてもらったことがあることがわかりました。特に4歳児の保護者は「よくしてもらった」「ときどきしてもらった」を合わせると72.5%の方が読み聞かせをしてもらった経験がありました。

	よくしてもらっていた	時々してもらっていた	あまりしてもらっていない	してもらっていない	計
4歳児の保護者	32	39	22	5	98
小学4年生の保護者	36	56	54	16	162
中学3年生の保護者	26	37	38	11	112
合計(人)	94	132	114	32	372

問 3



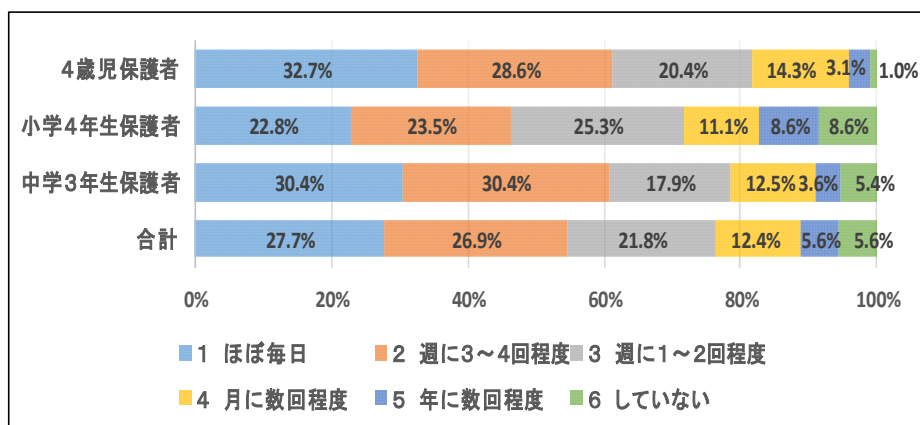
(ウ) ご家庭でお子様に、読み聞かせをしていましたか。(または、していますか) (問6)
 【保護者が自分の子に読み聞かせをしているかの有無】(SA)

子どもに読み聞かせをしたことがある(または、している)人は、全体で94.4%あり、非常に高い数値となっています。

特に4歳児の保護者は72.5%の方が読み聞かせをしてもらった経験があり、自分の子どもに対して読み聞かせをしている数値も99.1%と子どもの対象別で一番高い数値でした。

	ほぼ毎日	週に3～4回程度	週に1～2回程度	月に数回程度	年に数回程度	していない	計
4歳児の保護者	32	28	20	14	3	1	98
小学4年生の保護者	37	38	41	18	14	14	162
中学3年生の保護者	34	34	20	14	4	6	112
合計(人)	103	100	81	46	21	21	372

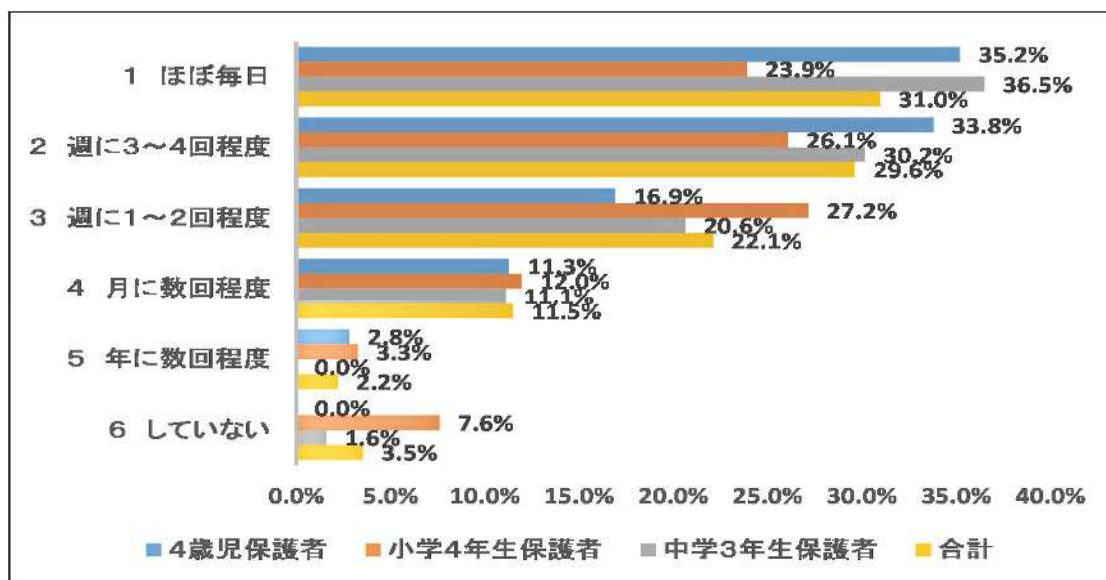
問6



(★) 保護者の方が小さい頃読み聞かせを「よくしてもらっていた(94人)」「時々してもらっていた(132人)」と答えた人(SA)が、ご自身の子どもの読み聞かせをしている人(SA)の割合(問3と問6のクロス集計)

全体で見ると、96.5%の保護者をご自身の子どもの読み聞かせをしていることがわかりました。特に4歳児の保護者は100%の方が読み聞かせをしていることがわかりました。

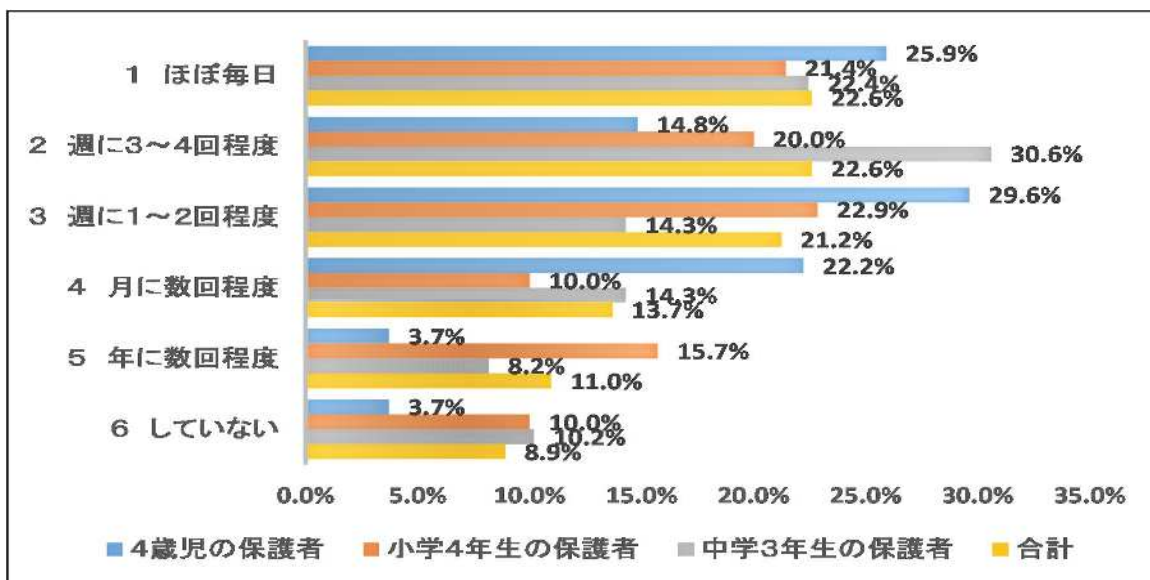
	ほぼ毎日	週に3～4回程度	週に1～2回程度	月に数回程度	年に数回程度	していない	計
4歳児の保護者	25	24	12	8	2	0	71
小学4年生の保護者	22	24	25	11	3	7	92
中学3年生の保護者	23	19	13	7	0	1	63
合計(人)	70	67	50	26	5	8	226



(★) 保護者の方が小さい頃読み聞かせを「あまりしてもらっていない(114人)」「してもらっていない(32人)」と答えた人(SA)が、ご自身の子どもに読み聞かせをしている人(SA)の割合(問3と問6のクロス集計)

全体で見ると、91.1%の保護者をご自身の子どもに読み聞かせをしていることがわかりました。

	ほぼ毎日	週に3～4回程度	週に1～2回程度	月に数回程度	年に数回程度	していない	計
4歳児の保護者	7	4	8	6	1	1	27
小学4年生の保護者	15	14	16	7	11	7	72
中学3年生の保護者	11	15	7	7	4	5	49
合計(人)	33	33	31	20	16	13	146



(エ) 読み聞かせをしていた人(351人)にお聞きしました。

あなたはお子様に、読み聞かせをしていた理由は何ですか。(問6-1)(MA3)

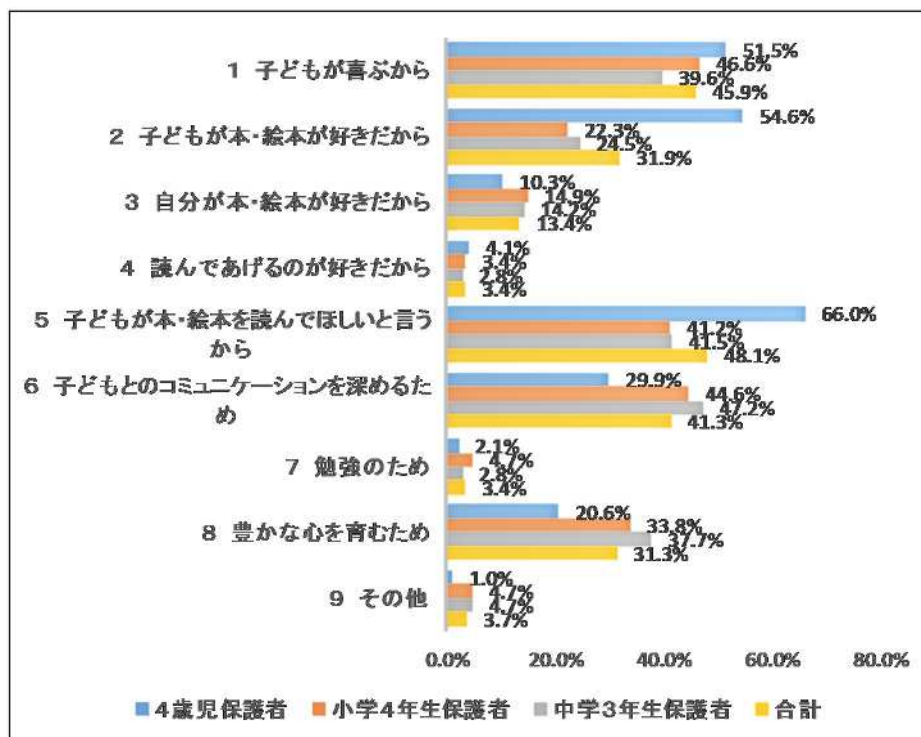
【読み聞かせをしていた理由】

全体を見ると、読み聞かせをしていた理由は「子どもが本・絵本を読んでほしいと言うから(48.1%)」が最も多く、次いで「子どもが喜ぶから(45.9%)」「子どもとのコミュニケーションを深めるため(41.3%)」となっていました。

学年別に見ると、「子どもとのコミュニケーションを深めるため」や「豊かな心を育むため」を理由に回答している方は、対象の学年が上がるにつれ多く選択されていました。

	子どもが喜ぶから	子どもが本・絵本が好きだから	自分が本・絵本が好きだから	読んであげるのが好きだから	子どもが本・絵本を読んでいるというから	子どもとのコミュニケーションを深めるため	勉強のため	豊かな心を育むため	その他
4歳児の保護者	50	53	10	4	64	29	2	20	1
小学4年生の保護者	69	33	22	5	61	66	7	50	7
中学3年生の保護者	42	26	15	3	44	50	3	40	5
合計(人)	161	112	47	12	169	145	12	110	13

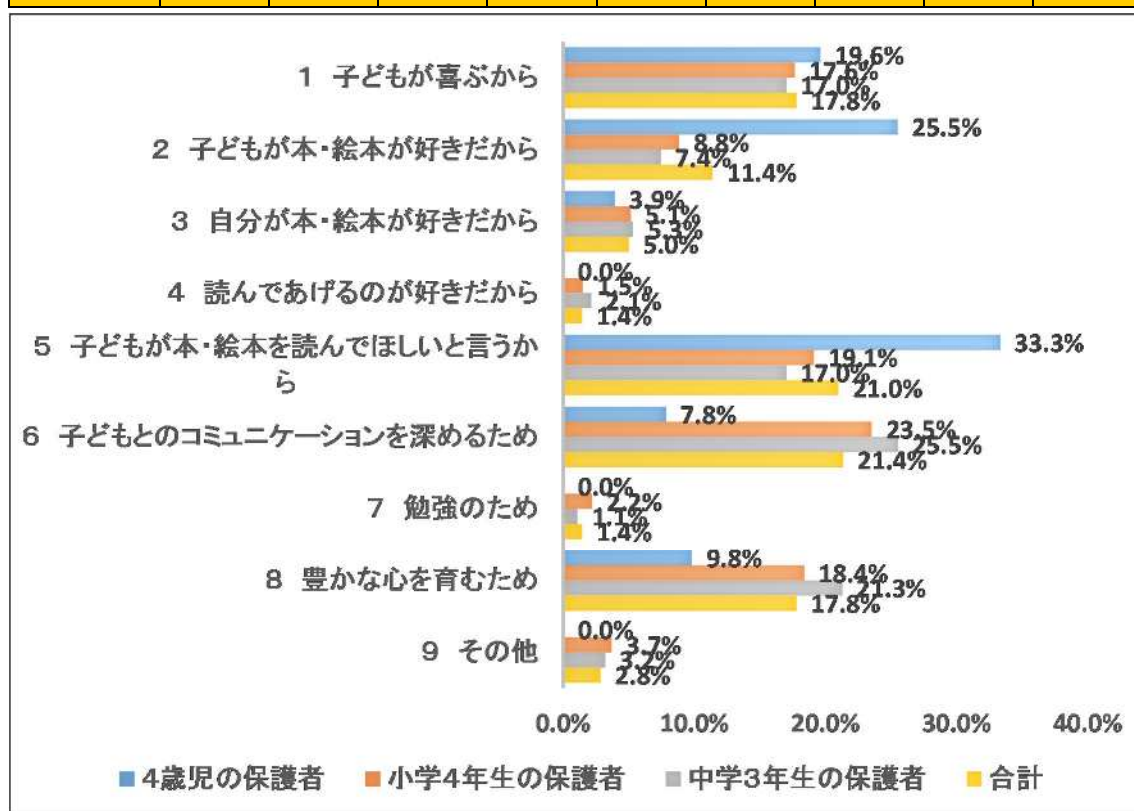
問6-1



(★) 保護者の方が小さい頃読み聞かせを「あまりしてもらっていない(114人)」「してもらっていない(32人)」と答えた人(SA)が、ご自身の子どもに読み聞かせをしていた理由(問3と問6-1のクロス集計)(MA3)

「子どもとのコミュニケーションを深めるため」を理由にされている方が多く、次に「子どもが本・絵本を読んでほしいと言うから」になっていました。

	子どもが喜ぶから	子どもが本・絵本が好きだから	自分が本・絵本が好きだから	読んであげるのが好きだから	子どもが本・絵本を読んでほしいと言うから	子どもとのコミュニケーションを深めるため	勉強のため	豊かな心を育むため	その他
4歳児の保護者	10	13	2	0	17	4	0	5	0
小学4年生の保護者	24	12	7	2	26	32	3	25	5
中学3年生の保護者	16	7	5	2	16	24	1	20	3
合計(人)	50	32	14	4	59	60	4	50	8



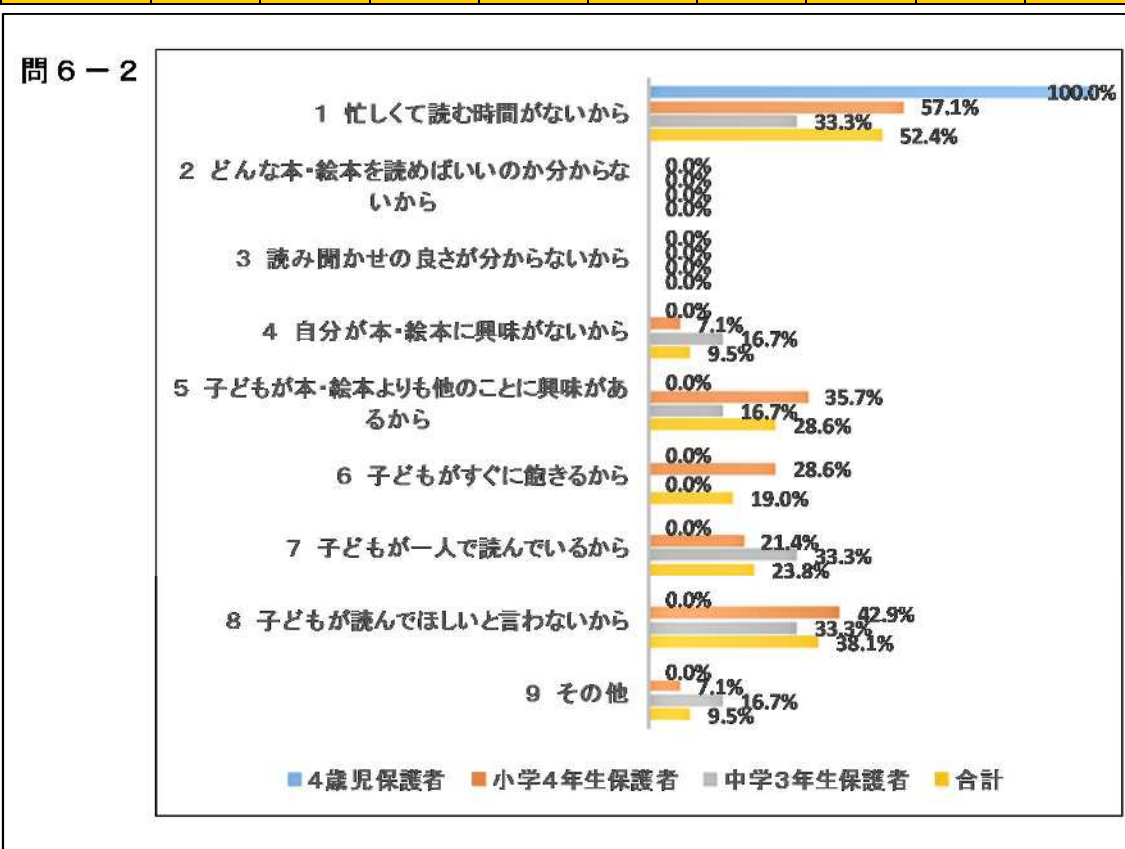
(オ) 読み聞かせをしていない人(21人)にお聞きしました。

あなたはお子様に、読み聞かせをしなかった理由は何ですか。(問6-2)(MA3)

【読み聞かせをしなかった理由】

読み聞かせをしなかった理由は「忙しくて読む時間がないから(52.4%)」が最も多く、次いで「子どもが読んでほしいと言わないから(38.1%)」「子どもが本・絵本よりも他のことに興味があるから(28.6%)」となっていました。

	忙しくて読む時間がないから	どんな本・絵本を読めばいいのかわからないから	読み聞かせの良さがわからないから	自分が本・絵本に興味がないから	子どもが本・絵本よりも他のことに興味があるから	子どもがすぐに飽きるから	子どもが一人で読んでいるから	子どもが読んでほしいと言わないから	その他
4歳児の保護者	1	0	0	0	0	0	0	0	0
小学4年生の保護者	8	0	0	1	5	4	3	6	1
中学3年生の保護者	2	0	0	1	1	0	2	2	1
合計(人)	11	0	0	2	6	4	5	8	2



②保護者から見た子ども読書の実施状況

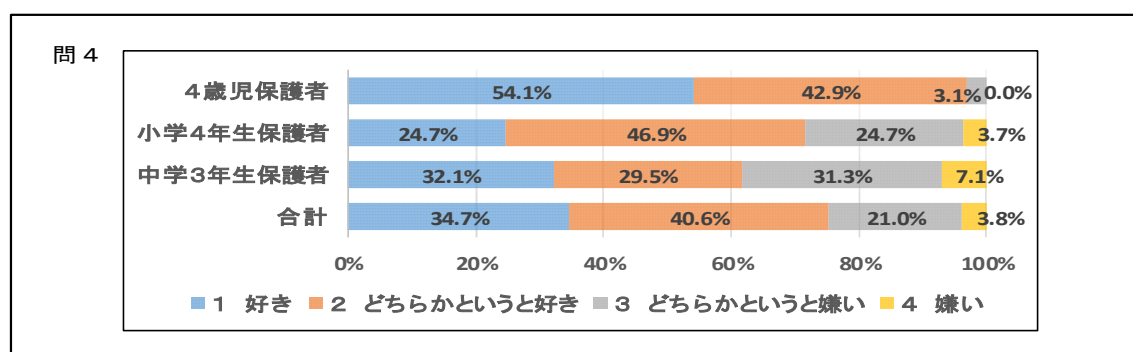
(カ) あなたのお子様は本が好きだと思いますか。(問4)(SA)

【保護者から見た子どもの好き・嫌いについて】

全体で見ると、子どもは本が「好き」と答えた保護者は34.7%で、「どちらかという」と好き(40.6%)を合わせると、75.3%の保護者が子どもは本を読むことが好きであると回答されています。

子どもの対象別に見ると、子どもは本が好き(「好き」「どちらかという」と好き)と感じておられる保護者の割合は、4歳児の保護者が97.0%と一番高い数値でした。

	好き	どちらかという と好き	どちらかという と嫌い	嫌い	計
4歳児の保護者	53	42	3	0	98
小学4年生の保護者	40	76	40	6	162
中学3年生の保護者	36	33	35	8	112
合計(人)	129	151	78	14	372



(キ) ご家庭でお子様はどのくらいの頻度で本を読んでいますか。(問5)(SA)

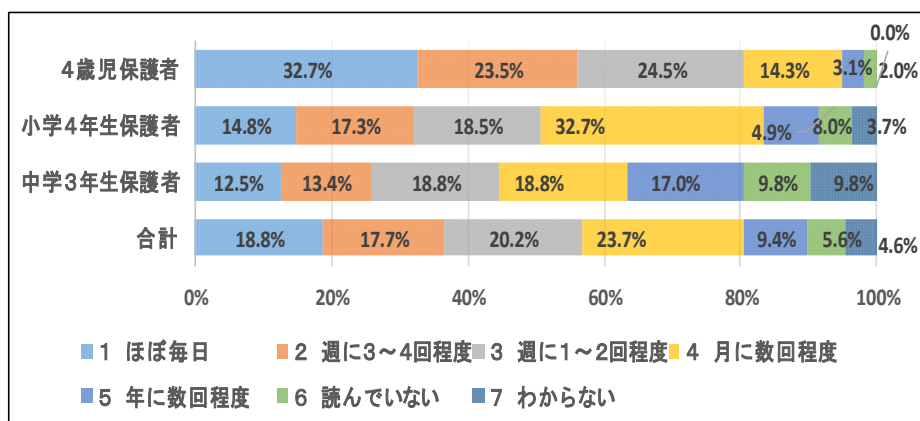
【保護者から見た家庭における子どもの読書状況について】

全体で見ると、89.8%がご家庭で本を読んでおられることがわかりました。

一方、「読んでいない(5.6%)」または「わからない(4.6%)」が10.2%となっていました。

	ほぼ毎日	週に3～ 4回程度	週に1～ 2回程度	月に数回 程度	年に数回 程度	読んでい ない	わからな い	計
4歳児の 保護者	32	23	24	14	3	2	0	98
小学4年生 の保護者	24	28	30	53	13	8	6	162
中学3年生 の保護者	14	15	21	21	19	11	11	112
合計(人)	70	66	75	88	35	21	17	372

問 5



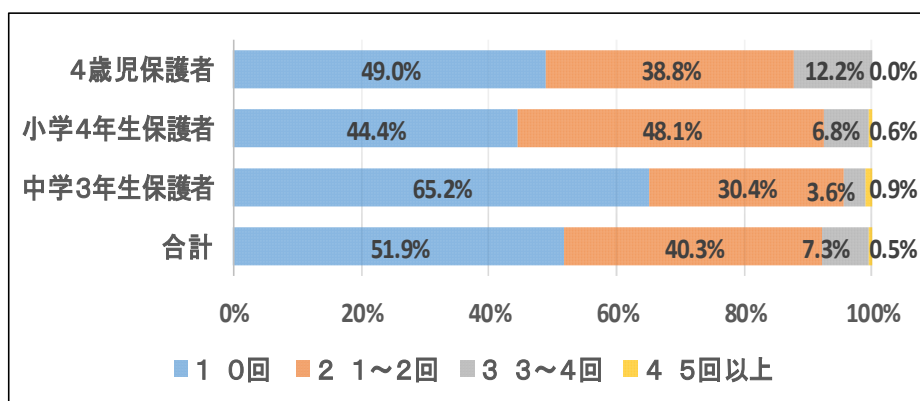
③市立図書館の親子での利用状況

(ク) あなたは、親子で図書館を1か月にどのくらいの回数を利用しますか。(問7)(SA)

全体を見ると、51.9%の人が市立図書館を利用していないことがわかりました。一方で、48.1%の人が親子で1回以上利用していることがわかりました。

	0回	1~2回	3~4回	5回以上	計
4歳児の保護者	48	38	12	0	98
小学4年生の保護者	72	78	11	1	162
中学3年生の保護者	73	34	4	1	112
合計(人)	193	150	27	2	372

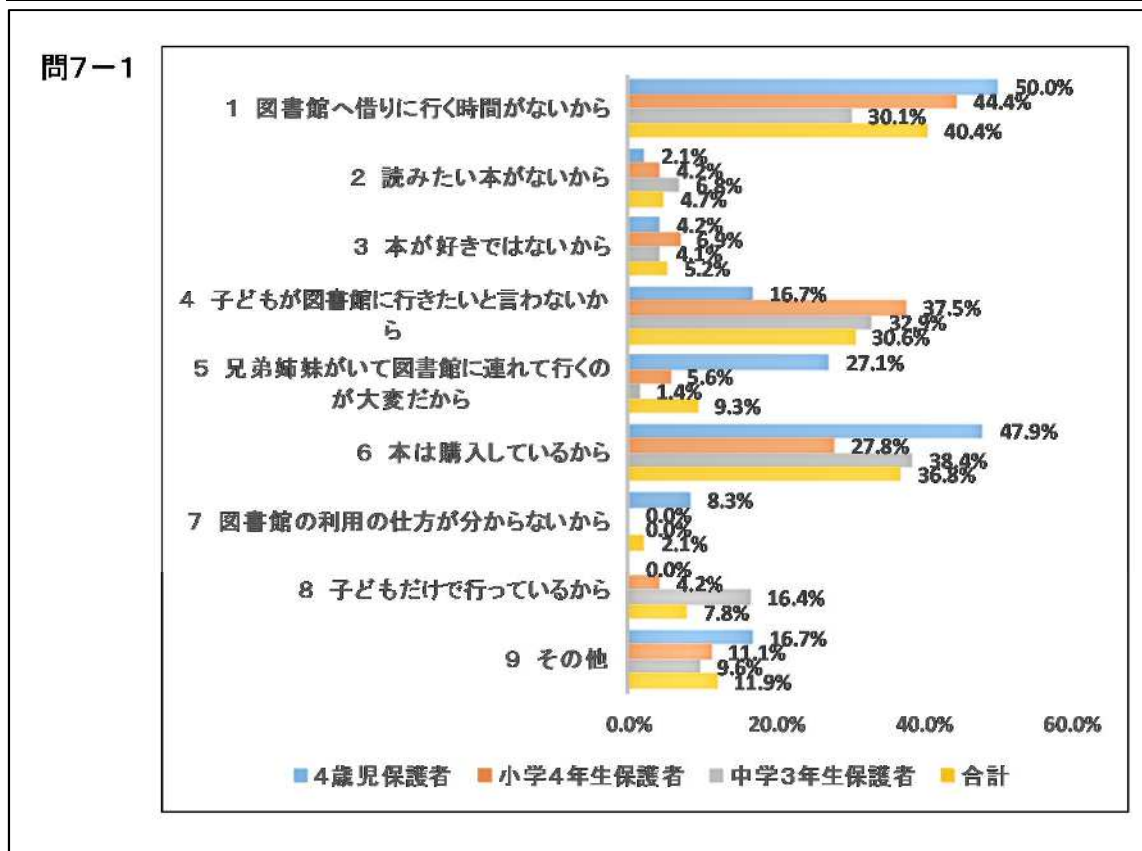
問 7



(ケ) 親子で図書館の利用回数が「0回」と答えた人(193人)の理由(問7-1)(MA3)

全体を見ると、「図書館へ借りに行く時間がないから」が40.4%と一番多く、次に「本は購入しているから(36.8%)」「子どもが図書館に行きたいと言わないから(30.6%)」という選択が多くなっていました。これは保護者や子どもの読書意欲が低いことによるものか、市立図書館の蔵書と本人の求める本のギャップが理由かは明らかではありません。

	図へに時なら	館りくがか 書借行間い	読みなら	み本い	たがか	本きなら	好はか がでい	子が館きとなら	も書行いわか ど図にた言い	兄弟が図にての変ら 兄妹て館れく大か	本入いら	はしる	購てか	図ののがらから	館用方かい	子だ行いら	もでてか どける	その他
4歳児の保護者	24	1	2	8	13	23	4	0	8									
小学4年生の保護者	32	3	5	27	4	20	0	3	8									
中学3年生の保護者	22	5	3	24	1	28	0	12	7									
合計（人）	78	9	10	59	18	71	4	15	23									

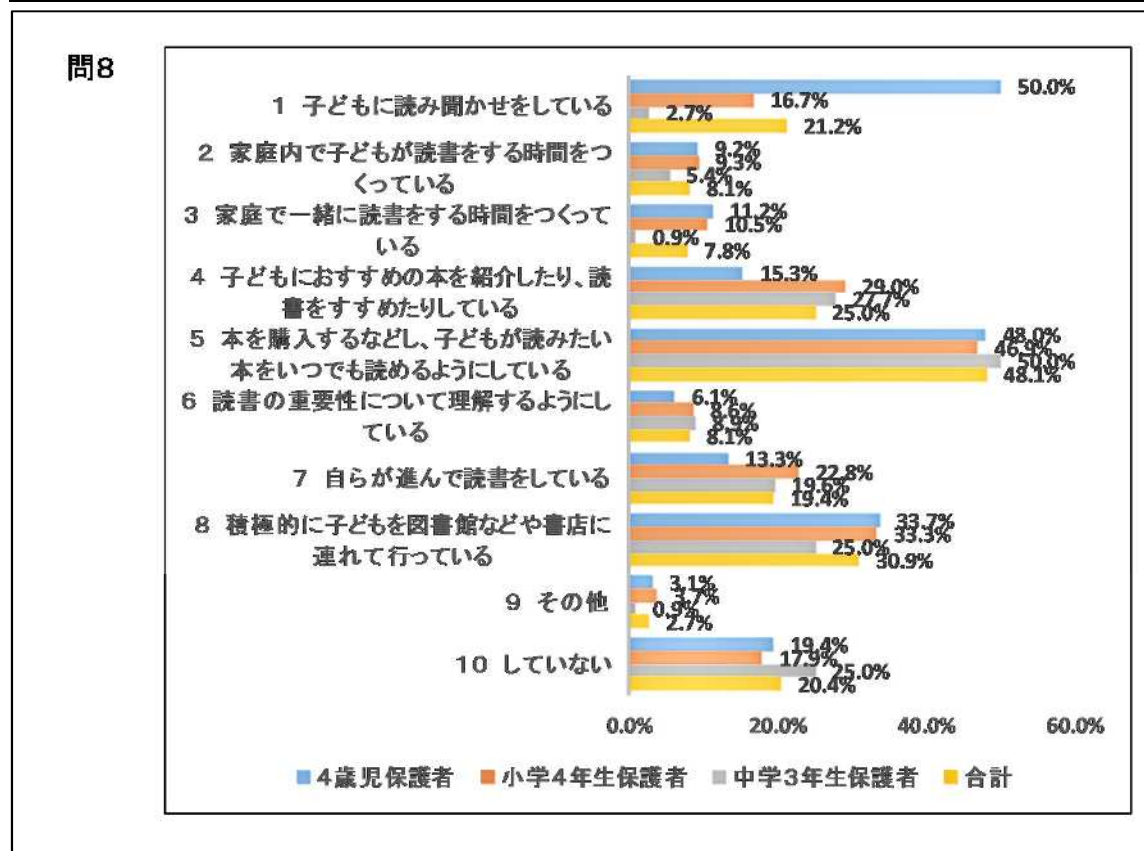


④子ども読書活動の推進のために、ご自身のご家庭で工夫されていること

(コ) 子どもの読書活動を推進するためにご家庭で工夫していること (問8) (MA)

全体を見ると、「本を購入するなどし、子どもが読みたい本をいつでも読めるようにしている (48.1%)」と回答した方が一番多く、次に「積極的に子どもを図書館などや書店に連れて行っている (33.7%)」「子どもにおすすめの本を紹介したり、読書をすすめていたりしている (25.0%)」などの工夫をされていることがわかりました。

	子どもに読み聞かせをしている	家庭内で子どもが読書をする時間をつくらせている	家庭で一緒に読書をする時間をつくらせている	子どもにおすすめの本を紹介したり、読書をすすめていたりしている	本を購入するなどし、子どもが読みたい本をいつでも読めるようにしている	読書の重要性について理解するようにしている	自らが進んで読書をしている	積極的に子どもを図書館などや書店に連れて行っている	その他	していない
4歳児の保護者	49	9	11	15	47	6	13	33	3	19
小学4年生の保護者	27	15	17	47	76	14	37	54	6	29
中学3年生の保護者	3	6	1	31	56	10	22	28	1	28
合計 (人)	79	30	29	93	179	30	72	115	10	76



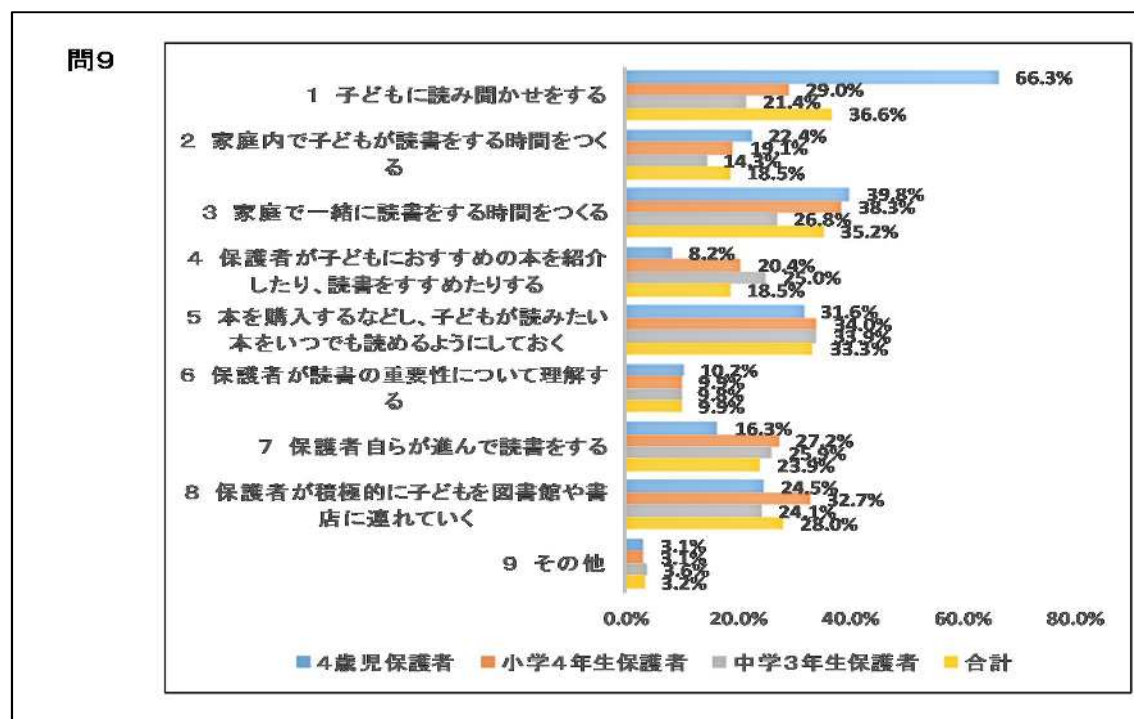
⑤子どもの読書活動を推進するために、取組むが必要だと考えられること

(サ)「家庭」でどのような取組むが必要だと考えますか。(問9)(MA3)

全体を見ると、「子どもに読み聞かせをする」が36.6%と一番多く、次に「家庭内で一緒に読書をする時間をつくる(35.2%)」、「本を購入するなどし、子どもが読みたい本をいつでも読めるようにしておく(33.3%)」の順に取組むが必要であると考えておられることがわかりました。

子どもの対象別にみると、4歳児の保護者では「子どもに読み聞かせをする(66.3%)」が一番多く、小学4年生保護者では「家庭内で一緒に読書をする時間をつくる(38.3%)」、中学3年生保護者では「本を購入するなどし、子どもが読みたい本をいつでも読めるようにしておく(33.9%)」となっていました。

	子どもに読み聞かせをする	家庭内で子どもが読書をする時間をつくる	家庭で一緒に読書をする時間をつくる	保護者が子どもにおすすめの本を紹介したり、読書をすすめたりする	本を購入するなどし、子どもが読みたい本をいつでも読めるようにしておく	保護者が読書の重要性について理解する	保護者自らが進んで読書をする	保護者が積極的に子どもを図書館や書店に連れていく	その他
4歳児の保護者	65	22	39	8	31	10	16	24	3
小学4年生の保護者	47	31	62	33	55	16	44	53	5
中学3年生の保護者	24	16	30	28	38	11	29	27	4
合計(人)	136	69	131	69	124	37	89	104	12

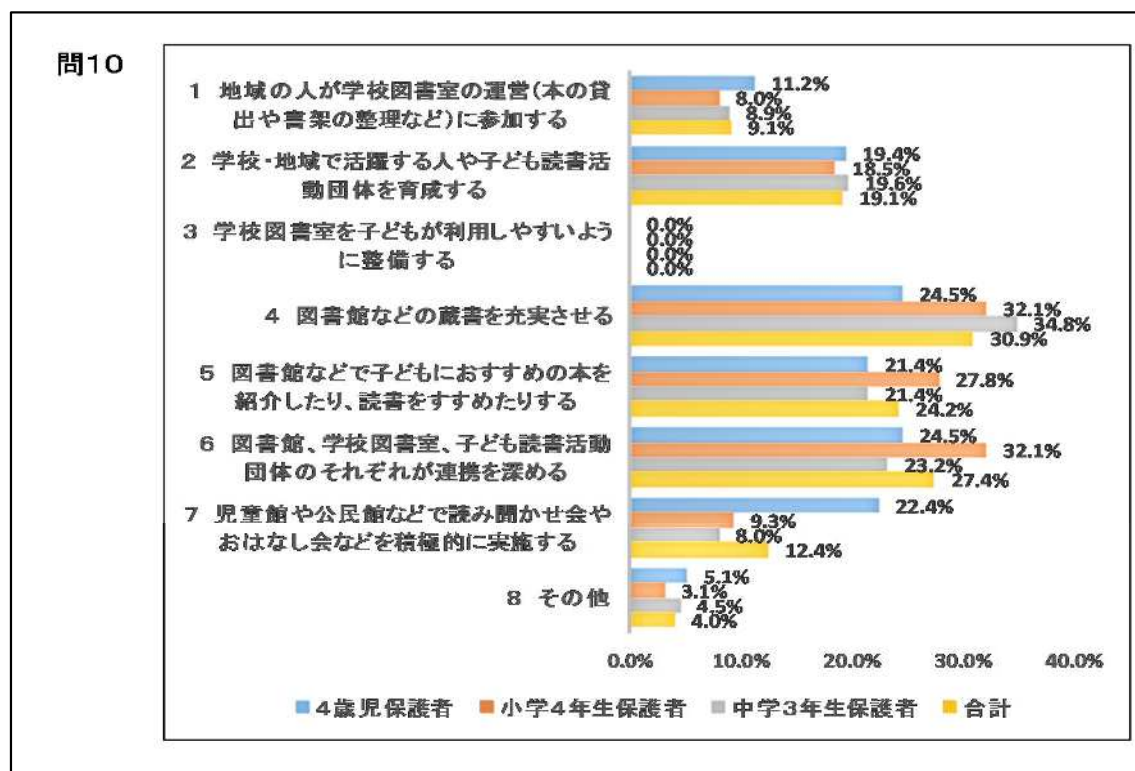


(シ)「地域」でどのような取組みが必要だと考えますか。(問10)(MA3)

全体を見ると、「図書館などの蔵書を充実させる」が30.9%と一番多く、次に「図書館、学校図書館、子ども読書活動団体のそれぞれが連携を深める(27.4%)」、「図書館などで子どもにおすすめの本を紹介したり、読書をすすめたりする(24.2%)」の順に取組みが必要であると考えておられることがわかりました。

子どもの対象別にみると、4歳児の保護者では「図書館などの蔵書を充実させる」「図書館、学校図書館、子ども読書活動団体のそれぞれが連携を深める(24.5%)」が一番多く、小学4年生保護者では「図書館、学校図書館、子ども読書活動団体のそれぞれが連携を深める」が多く選択されていました。また、中学3年生保護者では、「図書館などの蔵書を充実させる」が多く選択されていました。

	地域の人が学校図書館の運営(本の貸出や書架の整理など)に参加する	学校・地域で活躍する人や子ども読書活動団体を育成する	学校図書館を子どもが利用しやすいように整備する	図書館などの蔵書を充実させる	図書館などで子どもにおすすめの本を紹介したり、読書をすすめたりする	図書館、学校図書館、子ども読書活動団体のそれぞれが連携を深める	児童館や公民館などで読み聞かせ会やおはなし会などを積極的に実施する	その他
4歳児の保護者	11	19	0	24	21	24	22	5
小学4年生の保護者	13	30	0	52	45	52	15	5
中学3年生の保護者	10	22	0	39	24	26	9	5
合計(人)	34	71	0	115	90	102	46	15



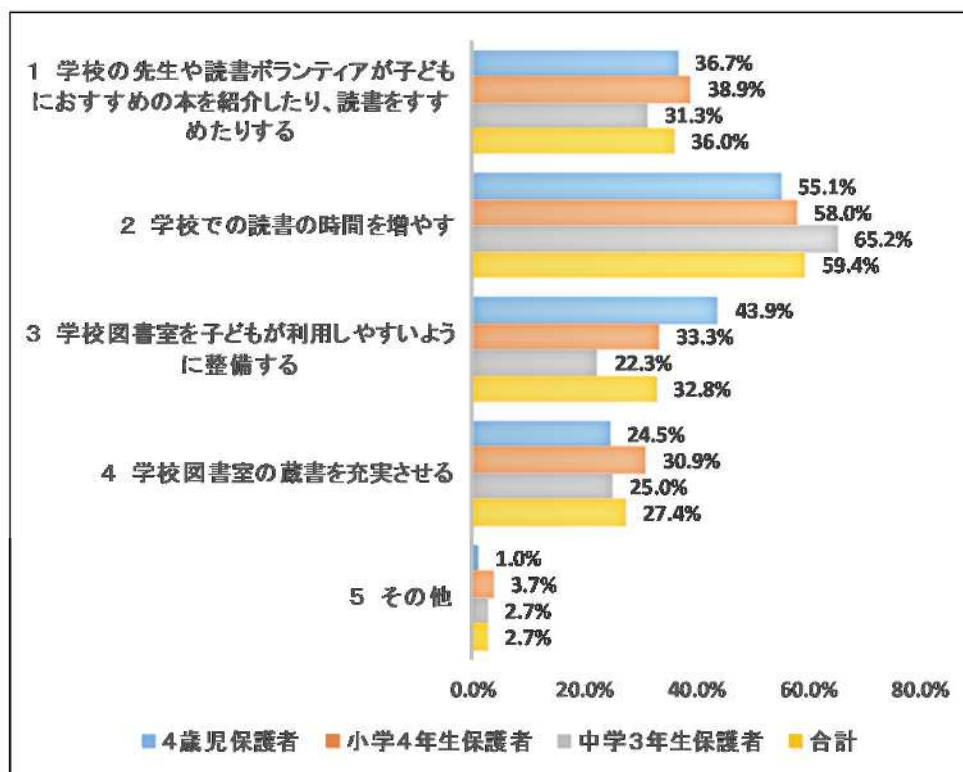
(ス)「学校」でどのような取組みが必要だと考えますか。(問11)(MA2)

全体を見ると、「学校での読書の時間を増やす」が59.4%と一番多く、次に「学校の先生や読書ボランティアが子どもにおすすめの本を紹介したり、読書をすすめたりする(36.0%)」の順に取組みが必要であると考えておられることがわかりました。

子どもの対象別に見ても、すべての保護者で「学校での読書の時間を増やす」の意見が多く、特に中学3年生の保護者では65.2%と多く選択されていました。

	学校の先生や読書ボランティアが子どもにおすすめの本を紹介したり、読書をすすめたりする	学校での読書の時間を増やす	学校図書館を子どもが利用しやすいように整備する	学校図書館の蔵書を充実させる	その他
4歳児の保護者	36	54	43	24	1
小学4年生の保護者	63	94	54	50	6
中学3年生の保護者	35	73	25	28	3
合計(人)	134	221	122	102	10

問11



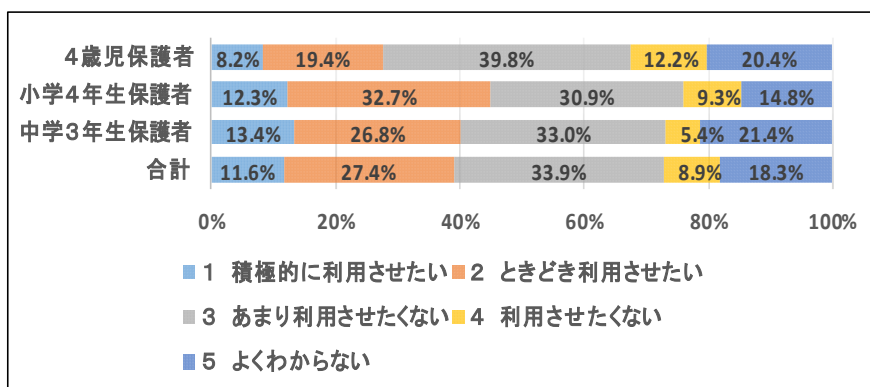
⑥電気書籍の利用について

(セ) あなたは、子どもの電子書籍の利用についてどのようにお考えですか。(問12)(SA)

電気書籍の利用について全体で見ると、「積極的に利用させたい(11.6%)」「ときどき利用させたい(27.4%)」と考えておられる方が39.0%あり、「あまり利用させたくない(33.9%)」「利用させたくない(8.9%)」が42.8%ありました。

	積極的に利用させたい	ときどき利用させたい	あまり利用させたくない	利用させたくない	よくわからない	計
4歳児の保護者	8	19	39	12	20	98
小学4年生の保護者	20	53	50	15	24	162
中学3年生の保護者	15	30	37	6	24	112
合計(人)	43	102	126	33	68	372

問12

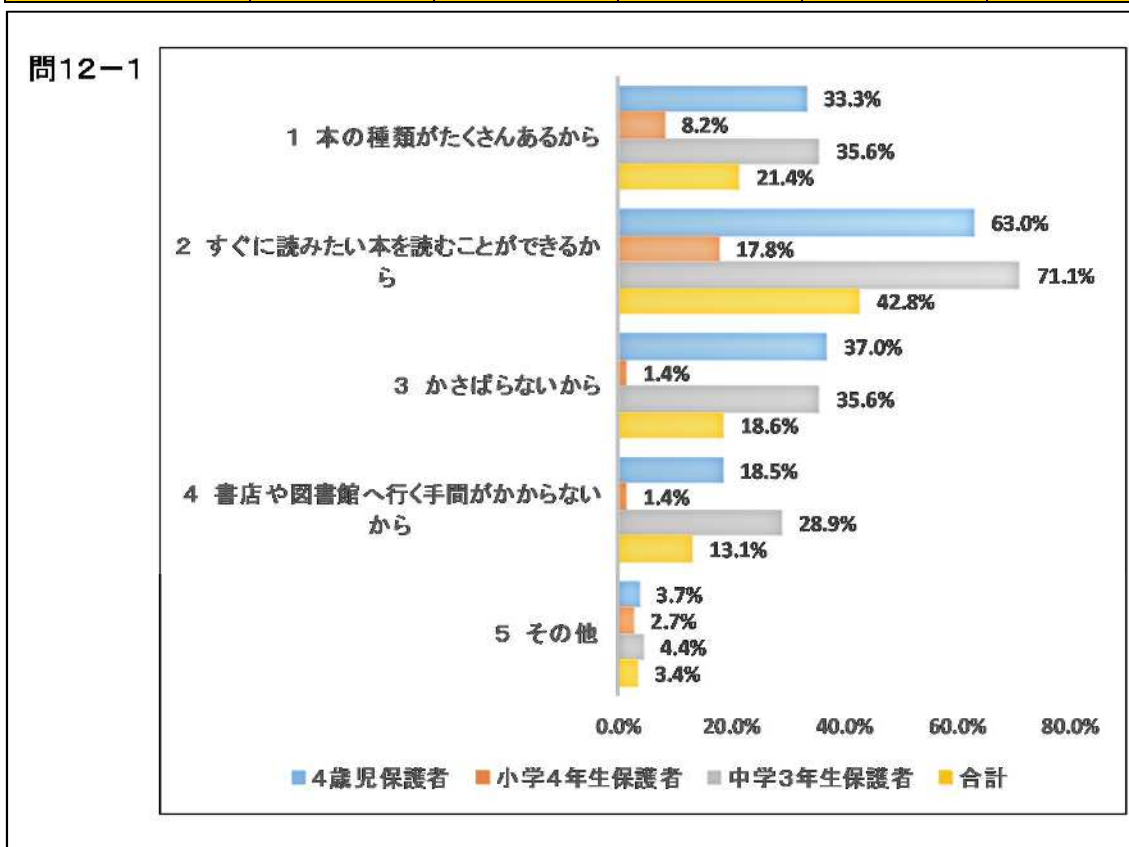


(ソ)「積極的に利用させたい(43人)」および「ときどき利用させたい(102人)」と答えた人の理由(問12-1)(MA2)

全体で見ても、「すぐに読みたい本を読むことができるから」を選択された方が42.8%と一番多く、次に「本の種類がたくさんあるから(21.4%)」の理由が多くありました。

子どもの対象別に見ても「すぐに読みたい本を読むことができるから」がどの対象の保護者でも多くあり、中学3年生保護者では71.1%と高い数値になっていました。

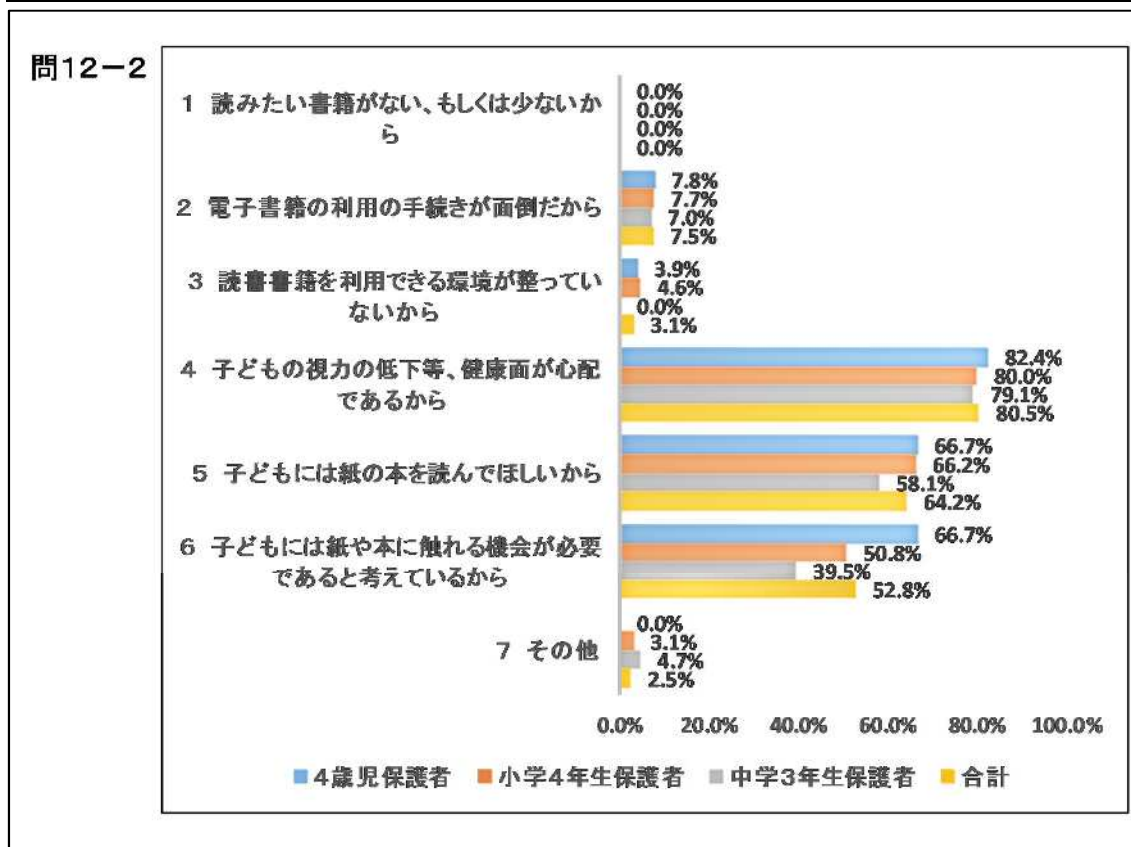
	本の種類がたくさんあるから	すぐに読みたい本を読むことができるから	かさばらないから	書店や図書館へ行く手間がかからないから	その他
4歳児の保護者	9	17	10	5	1
小学4年生の保護者	6	13	1	1	2
中学3年生の保護者	16	32	16	13	2
合計(人)	31	62	27	19	5



(タ)「あまり利用させたくない(126人)」および「利用させたくない(33人)」と答えた人の理由(問12-2)(MA)

全体で見ても、「子どもの視力の低下等、健康面が心配であるから」を選択された方が80.5%と非常に多く、次に「子どもには紙の本を読んでほしいから(64.2%)」の理由も多くありました。

	読みたい書籍がない、もしくは少ないから	電子書籍の利用の手続きが面倒だから	読書書籍を利用できる環境が整っていないから	子どもの視力の低下等、健康面が心配であるから	子どもには紙の本を読んでほしいから	子どもには紙や本に触れる機会が必要であると考えているから	その他
4歳児の保護者	0	4	2	42	34	34	0
小学4年生の保護者	0	5	3	52	43	33	2
中学3年生の保護者	0	3	0	34	25	17	2
合計(人)	0	12	5	128	102	84	4



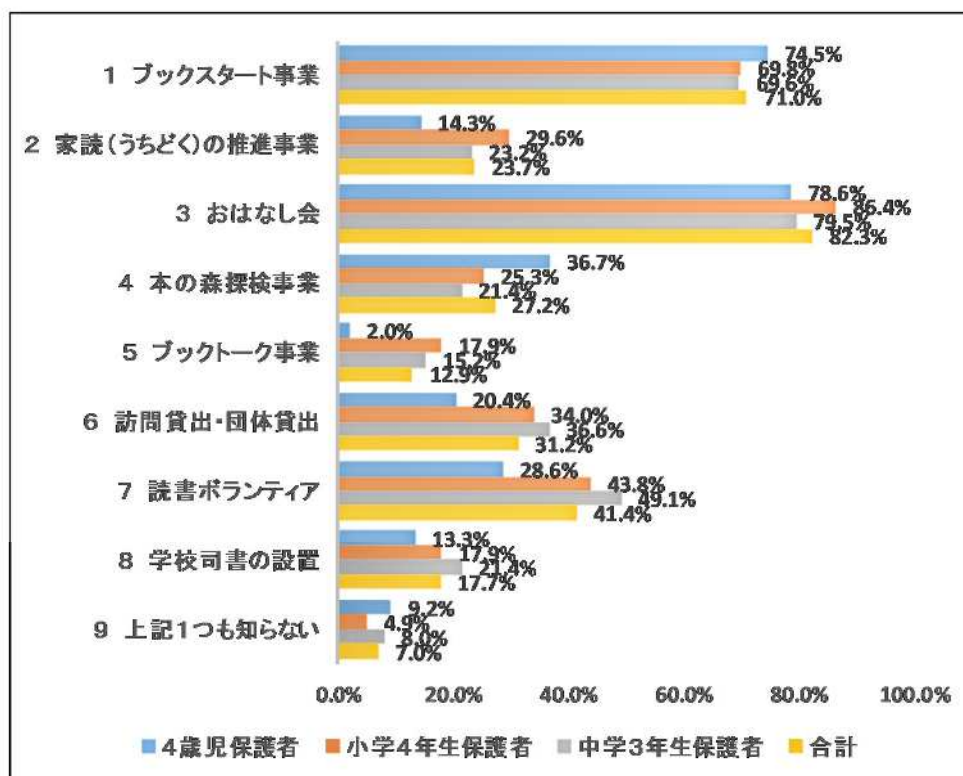
⑦高島市子ども読書活動を推進するための事業の実施状況把握

(チ) 子どもの読書活動を推進するために、高島市で実施している事業の状況把握 (問 13)
(MA)

全体で見ると、「1つも知らない」と回答された方が7.0%ありました。市民のみなさんに子ども読書活動を推進する事業を知っていただけるよう、今後も継続して事業を実施し周知・啓発を行う必要があります。

	ブックスタート事業	家読(うちどく)の推進事業	おはなし会	本の森探検事業	ブックトーク事業	訪問貸出・団体貸出	読書ボランティア	学校司書の設置	上記1つも知らない
4歳児の保護者	73	14	77	36	2	20	28	13	9
小学4年生の保護者	113	48	140	41	29	55	71	29	8
中学3年生の保護者	78	26	89	24	17	41	55	24	9
合計(人)	264	88	306	101	48	116	154	66	26

問13



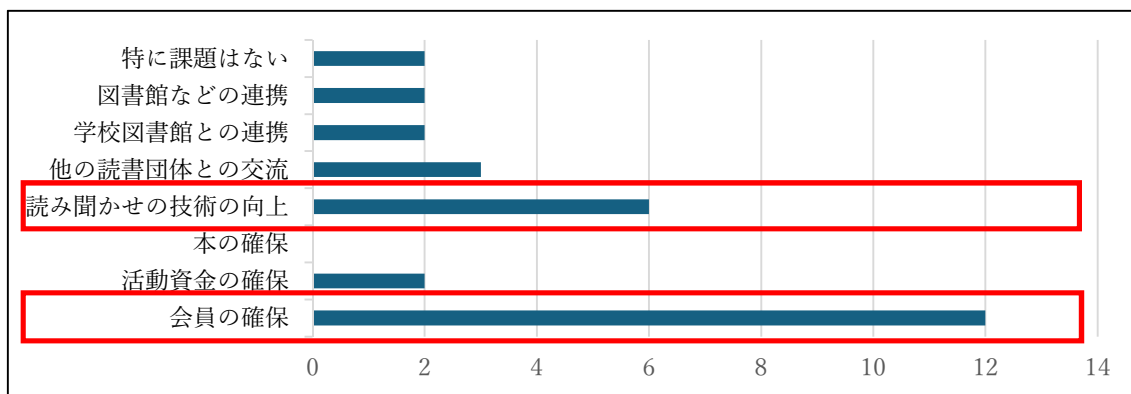
3 子ども読書活動団体等を対象とした意識調査

(1) 調査概要

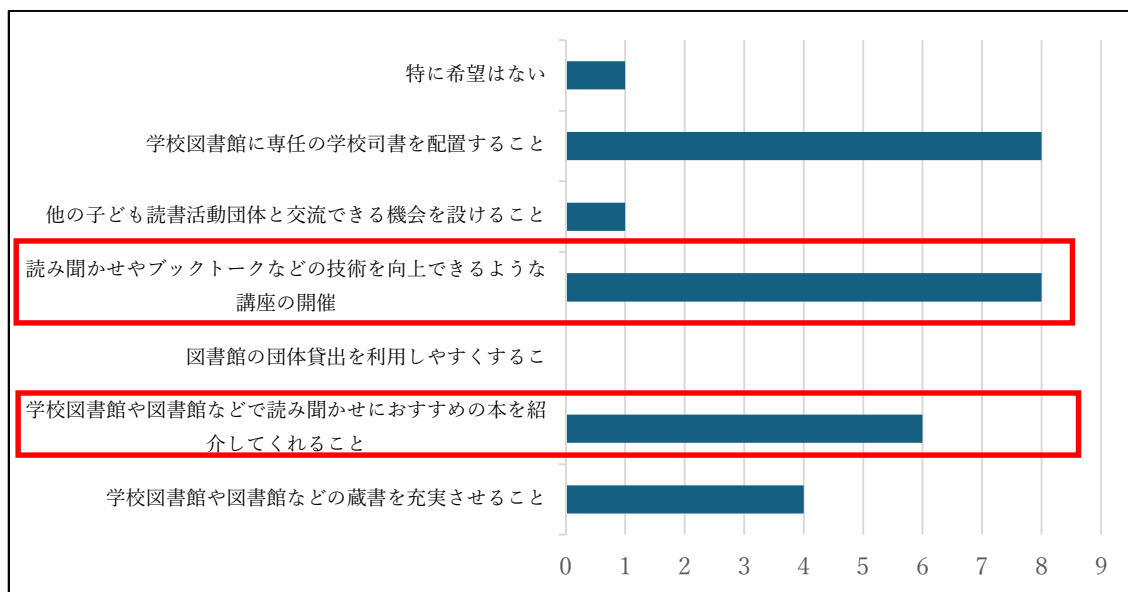
調査目的	本調査は子ども読書活動団体を対象に活動の状況などについて把握し、「高島市子ども読書活動推進計画（第4次計画）」の策定に活用することを目的とします。
調査対象	市内で読書活動等をされている団体
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	令和6年6月24日～令和6年7月26日
回答結果	調査団体数：17団体 回答団体数：15団体 回答率：88.2%

(2) 調査結果の概要

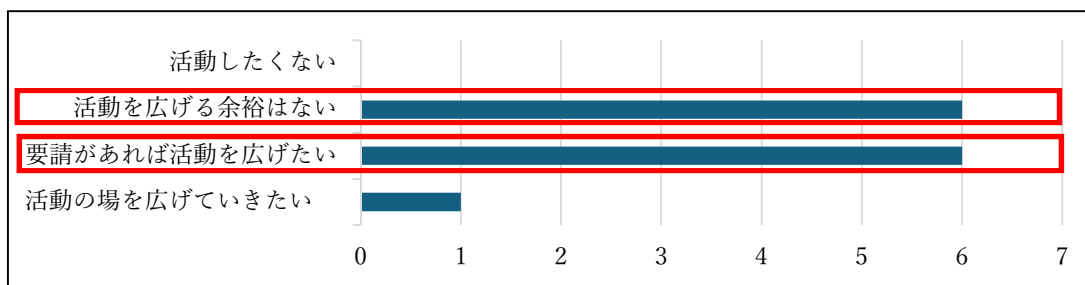
①活動する上での課題はありますか。(MA3)



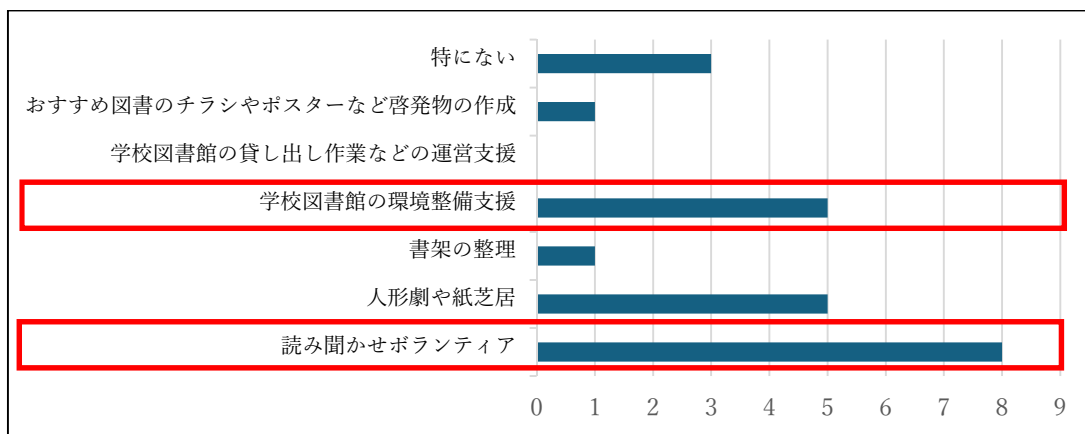
②活動をする上でどのような支援を望みますか。(MA3)



③今後活動の場についてどのように考えておられますか。(S A)

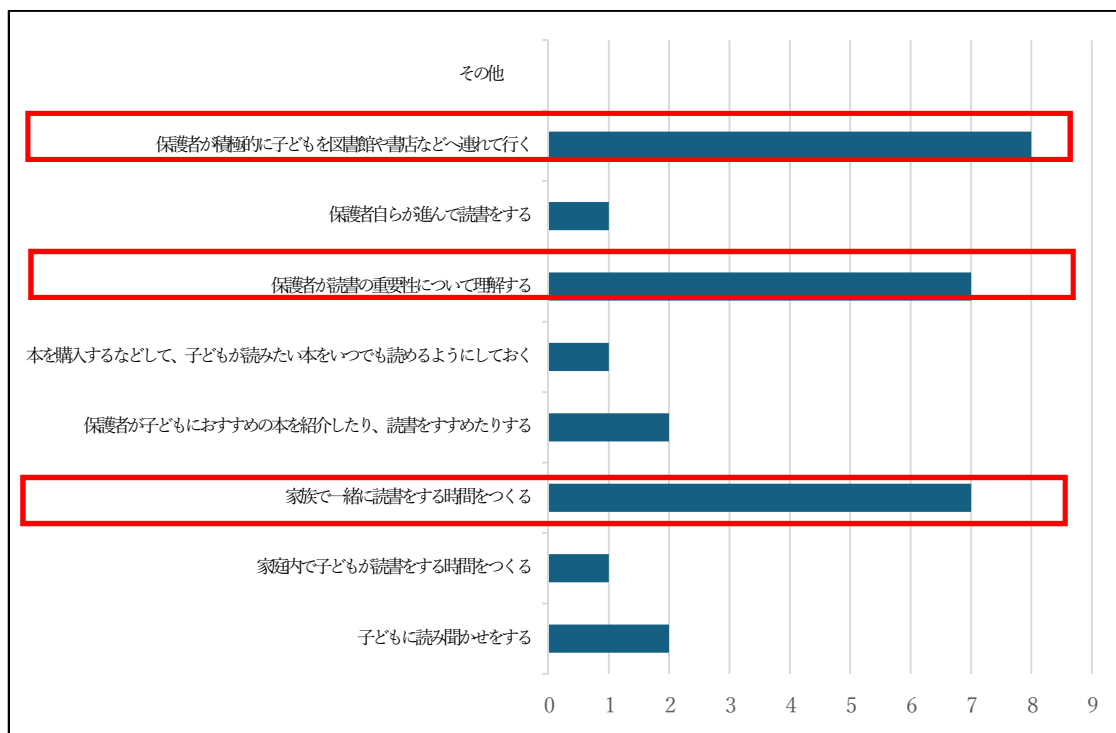


④今後の活動内容についてやってみたいと思われる活動 (MA 3)

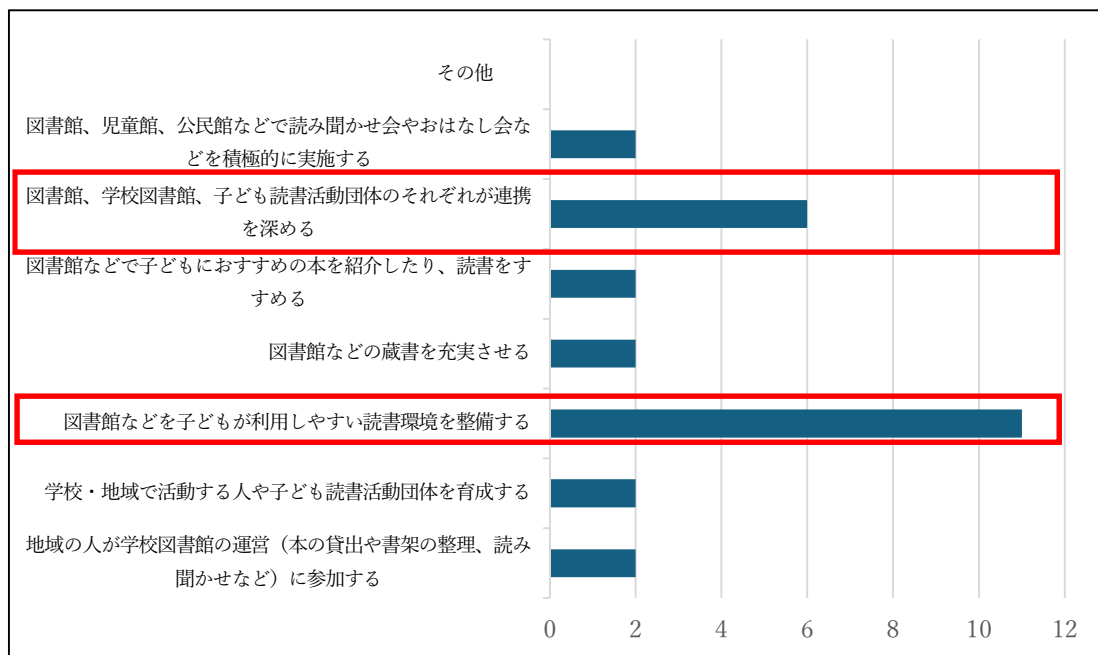


⑤子どもの読書活動を推進するためには、家庭、地域、学校でどのような取り組みが必要だと考えますか。(MA 2)

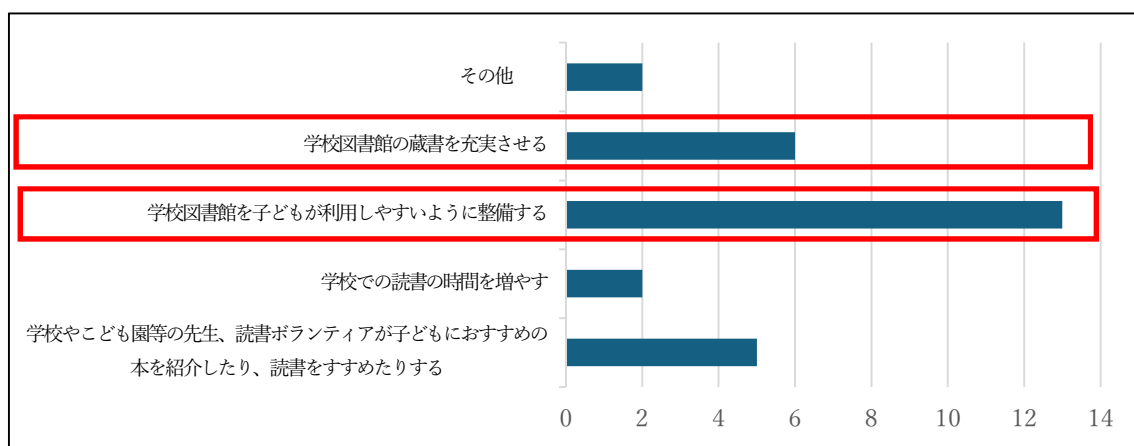
(ア) 家庭での取り組み



(イ) 地域での取組み



(ウ) 学校での取組み



調査結果の表示方法・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。

・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。

・クロス集計とは、2つの設問を組み合わせることで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

S A・・・シングルアンサーの略で選択肢の中から1つだけ回答する設問

MA・・・マルチアンサーの略で選択肢の中から複数回答する設問（例：MA 2は選択肢の中から2つ選択する設問）

4 課題の整理

(1) 子どもの読書率の向上

滋賀県子どもの読書活動に関する調査の「5月の1か月間に1冊以上本を読んだ子どもの割合（読書率）」で滋賀県と高島市を比較すると、高島市は令和4年度から令和6年度にかけて伸びており、大きく上回っている状況です。

引き続き、すべての子どもたちが本に親しみ、読書のよさを知り、自主的に読書をするようになるため、子ども一人ひとりの環境や多様性に応じた読書環境の整備や周囲への働きかけを行うなど子ども読書率の向上に取り組む必要があります。

(2) 家庭における子ども読書活動の推進

保護者を対象としたアンケート調査で子どもへの読み聞かせの有無について調査をしたところ、94.4%と非常に高い数値となっていました。また、小学生になってからの読書率は、就学前の家庭における読み聞かせなどの実施が大きく影響を与えられると考えられています。このことから、今後においても家庭における読み聞かせなどの大切さを伝えるなど、子ども読書活動の理解を深める啓発活動を進める必要があります。

また、児童生徒を対象としたアンケート調査では、家庭で読書するとき1週間で1日以上本を読んでいると回答した児童生徒は、73.7%となっていました。引き続き、家読（うちどく）を啓発し、本を読むことを通して家族の結びつきを強め、本のよさを知るきっかけづくりとなるよう、家庭における子どもの読書活動を推進していく必要があります。

(3) 市立図書館・学校図書館・園等の連携

子どもたちに本のよさを伝えるためには、周囲の大人が子ども読書の意義や重要性を理解することが必要です。保護者を対象としたアンケート調査では、子ども読書活動推進事業の取組みを知らない保護者が7%ありました。第4次計画ではすべての保護者が事業の内容など子ども読書の重要性について理解していただけるよう、啓発の方法を検討する必要があります。

また、令和6年度からは学校司書（2人）を配置しましたが、1学校における勤務時間が短いことから、関係者との連携が課題です。今後、学校図書館において子ども読書活動を充実するためには、学校図書館担当者・学校司書・ボランティア・小中学校における図書委員等が連携し、一体となって進められる環境を整えるとともに、市立図書館と各校園が連携し、子どもの読書活動の取組みを充実させる必要があります。

（４）読書活動ボランティアの育成と支援

子ども読書活動団体等を対象に当該団体における課題についてアンケート調査をしたところ、会員の確保や読み聞かせの技術向上に対する意見が多くありました。また、団体への支援では、ボランティア養成講座の開催などを求める意見が多くありました。

これを踏まえ、読書活動団体の活動をより充実させるために、子ども読書活動に関わる人材の育成や、ボランティアの方のスキルアップに向けた情報提供などの支援を充実させる必要があります。

（５）デジタル社会に対応した読書環境の整備

学校においては、児童生徒向けの１人１台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するＧＩＧＡスクール構想の実現に向けて展開されています。

令和６年度の児童生徒を対象としたアンケート調査では、電子書籍を利用して本を読むことがある児童生徒は５４．２％あり、５０％を上回っていました。

しかし、保護者を対象としたアンケート調査では電子書籍の利用については、「あまり利用させたくない」、「利用させたくない」が４２．８％と、子どもの視力低下等の健康面を心配する保護者が多い状況でした。

こうした状況を踏まえ、多様な子どもたちの読書機会の確保を図るためには、言語能力や情報活用能力を育むとともに、子どもたちの健康や発達段階等に配慮して電子書籍等の利用などの読書環境を整備していく必要があります。

◆第4章 計画の基本的な考え方

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で、欠くことのできないものです。すべての子どもが、あらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的に読書環境の整備を推進しなければならないと、国の「子どもの読書活動に関する法律」に明記されています。

高島市では、第1次計画からの基本目標を継承するとともに、新たに「届ける」・「伝える」・「支える」を合言葉に3つの基本方針を定め、取組みを推進します。

1 基本目標

“読書のまち高島” 本の楽しみをすべての子どもに

2 計画の基本方針（計画の考え方）

【基本方針1】すべての子どもに本との出会いを届ける

子どもの発達段階に応じて、読書のよさを知るきっかけをつくり、読書の幅を広げ、読書体験を深める必要があります。このような観点から、発達段階により子どもの読書活動の状況に差があることに注意しながら、乳幼児期から子どもの実態に応じて、すべての子どもに本との出会いを届けます。

（1）絵本はこころのミルク（乳児期）

「絵本を使ってやさしく語りかけ」「親子で絵本を楽しむ」

赤ちゃんの体の成長にミルクが必要なように、心の成長には、周囲からのあたたかい言葉かけなどの関わりが必要です。だっこのあたたかさの中で絵本を開きながらやさしく語りかけてあげることが大切です。

（2）絵本となかよし（幼児期）

「絵本とふれあう大切な時間」「地域で支える絵本の世界」

幼い子どもはおひざにだっこされ、絵本を読んでもらうのが大好きです。それにより、読み手の気持ちが伝わり愛されているという自尊感情が育まれます。

(3) 本はともだち（児童）

「子どもと本をつなぐ学校図書館」「そっと後押し本の世界へ」

絵本から物語へと、読書の世界が広がる時期です。言葉をゆっくり吸収し、想像力を働かせながら読書を楽しむことのできる環境が大切です。

(4) 本は心の翼（生徒）

「学校図書館の充実」「深まる読書体験」

この時期こそ生まれる力を与えてくれる本との出会いが大切です。心が豊かになり、世界観が広がるような本を手渡せる環境と体制が必要です。

(5) 本は生涯の道しるべ（中学校を卒業したら）

「知行合一」「志を持ち続ける子どもたちへ」

本は、ひとりの人間としての自覚を育み、心を支える力となります。本で得た知識を日々の生活や社会に生かせるよう、生涯学んでいくための読書活動を行います。

【基本方針2】すべての子どもに読書のよさを伝える

子どもの読書活動を推進するためには、周囲の大人が、子どもが読書することの意義や重要性を理解する必要があります。

保護者の方や市民の理解と関心を高めるような読書活動の啓発を行います。

また、学校司書・教職員・保育者等に対し研修を実施し、子どもの読書活動における人材育成に努めます。

【基本方針3】すべての子どもの読書活動を支える

子どもの読書活動を推進するためには、子どもたちの読書活動を支える仕組みづくりを整えることが重要です。

市立図書館や各校園が連携し、互いの機能が十分に発揮できるよう体制づくりを整えます。

また、地域の団体や、ボランティア団体等へ支援を行うとともに、情報交換や研修を実施し、子ども読書活動を推進する体制の充実を図ります。

3 計画の体系

区分	対象等	施 策		担当課
家庭	乳児期	継続	①ブックスタート	図書館 健康推進課
		継続	②おはなし会(読み語りを含む)	図書館
		継続	③絵本の紹介、読み方、選び方等の情報提供	図書館
		継続	④家庭教育事業における子ども読書活動	社会教育課
	幼児期 児童 生徒 保護者	継続	⑤家読（うちどく）の啓発・推進	社会教育課
地域	(1)図書館における取組み 全対象	重点	⑥市立図書館の機能の充実等	図書館
		継続	⑦市立図書館の利用促進	
		継続	⑧ヤングアダルトへの読書推進	
		継続	⑨ブックスタートサポーターおよびブックトークボランティアの育成	
		継続	⑩ブックトークボランティアの派遣および体制整備	
	(2)子ども読書活動団体に対する取組み	継続	⑪学校図書館ボランティア団体等（地域読書ボランティアを含む）への支援	社会教育課
		継続	⑫学校図書館ボランティア団体等への情報提供	

区分	対象等	施 策	担当課	区分
園等	幼児期	継続	⑬園等における図書および環境づくりの充実等	幼児保育課
		継続	⑭家庭への啓発	
		継続	⑮保育者の絵本への理解と技能等の向上	
		継続	⑯市立図書館との連携強化	幼児保育課 図書館
		新規	⑰家庭への意識調査	社会教育課
小中学校	児童 生徒	重点	⑱読書率の向上（不読率の低減）	学校教育課
		重点 (新規)	⑲学校司書の専門性の向上	
		新規	⑳デジタル社会に対応した読書および情報活用の推進	
		継続	㉑学校図書館の機能の充実等	
		継続	㉒朝の読書活動	
		継続	㉓教員の図書館教育への理解と技能力の向上	
		継続	㉔市立図書館との連携強化	学校教育課 図書館
		新規	㉕子どもへの意識調査	社会教育課
広報および啓発	全対象	新規	㉖啓発広報活動の推進	社会教育課
		継続	㉗情報の提供	
施策の推進方法		継続	㉘子ども読書活動推進協議会	社会教育課

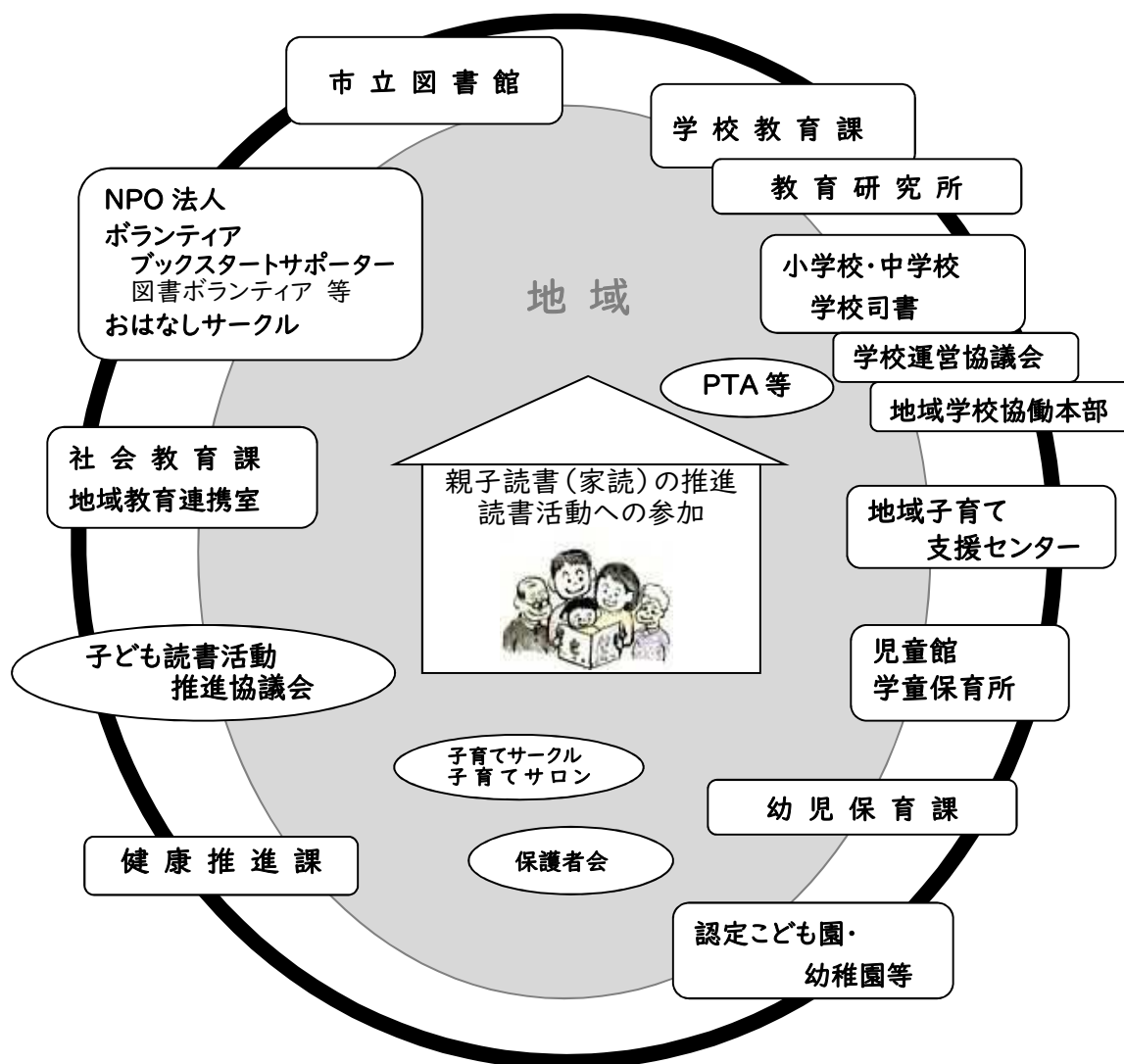
4 子ども読書活動推進体制

(1) 高島市子ども読書活動推進協議会の設置

この計画を効果的に推進するため、関係各課からなる「高島市子ども読書活動推進協議会」を設置し、事業の進捗状況を把握しながら、子どもの読書活動推進事業の継続的な進捗管理を行います。

(2) 関係機関との連携・協力

市立図書館や関係する諸団体や関係機関と連携を図りながら、子ども読書活動の効果的な計画の推進を図ります。



◆第5章 子ども読書活動推進のための取組み

【家庭】

施 策	内 容
①ブックスタート	・ 4 か月児と 1 歳 8 か月児の健診時にブックスタート事業を行います。 ・ ブックスタートサポーターの養成を行います。 ・ ブックスタートフォローアップ事業を健診時に実施できるよう検討します。
②おはなし会(読み語りを含む)	・ おはなしサークルをはじめとするボランティアの協力を得て、すべての市立図書館でおはなし会を開催します。
③絵本の紹介、読み方、選び方等の情報提供	・ 市立図書館利用者からの問い合わせに応じた図書等の紹介や検索はもとより、年齢階層に応じた絵本の紹介や読み方、選び方などの情報提供を定期的に行います。 ・ SNS など多様な手段を活用して図書等の情報発信を行います。
④家庭教育事業における子ども読書活動	・ 家庭教育関連に関するイベントや企画を共有し、読書の意義や大切さなどを効果的・効率的に情報提供できるよう、市立図書館や関係する諸団体や関係機関と連携します。 ・ 妊婦やその家族を対象にした子ども読書活動の啓発を行います。
⑤家読（うちどく）の啓発・推進	・ 家庭での読書時間を増やせるよう、年齢層に応じた家読（うちどく）の啓発を行います。 ・ 高島市 PTA 連絡協議会の広報誌等を活用した啓発を行います。 ・ 各校園の PTA 等に、保護者を対象とした子ども読書活動を推進する研修会の開催を促します。 ・ 児童館や学童保育所等で開催されるおはなし会や、体験活動の場で家読（うちどく）の啓発を行います。



【地域】

(1) 市立図書館における取組み

施 策	内 容
⑥市立図書館の機能の充実等	・読書バリアフリーを推進するため、需要の調査や関係機関との協議・調整を行います。 ・多様な子どもたちが利用できる「りんごの棚」の設置について検討します。
⑦市立図書館の利用促進	・各校園と連携し、訪問貸出、団体貸出、本の森探検事業およびブックトークを行い、本に親しみをもつ子どもを増やし、市立図書館の利用を促進します。
⑧ヤングアダルトへの読書推進	・ヤングアダルトへの情報発信に努めるとともに、その世代向けの図書紹介のチラシを作成し、県立学校へ配布を行います。 ・市立図書館にヤングアダルトコーナーを設置して中高生の市立図書館の利用を推進します。
⑨ブックスタートサポーターおよびブックトークボランティアの育成	・講習会やベテランサポーターとの交流会を開催し、ブックスタートサポーターおよびブックトークボランティアの育成を行います。
⑩ブックトークボランティアの派遣および体制整備	・小中学校にブックトークボランティアが派遣できるよう体制を整備します。

(2) 子ども読書活動団体に対する取組み

施 策	内 容
⑪学校図書館ボランティア団体等（地域読書ボランティアを含む）への支援	・読み聞かせや本の修理など、学校図書館を支援する団体の人材育成に関する講座を開催します。 ・ボランティア活動で利用できるおすすめ絵本などの紹介や必要に応じて図書資料の提供を行います。 ・ボランティア団体の会員確保につながるよう、各校園の PTA 等や地域住民の方に対して会員募集の周知を行います。 ・市立図書館、各校園、学校図書館ボランティア団体（地域読書ボランティアを含む）等の連携会議を開催します。
⑫学校図書館ボランティア団体等への情報提供	・県などで開催される図書館サポーター養成講座などの情報提供を学校図書館ボランティア団体等に行います。

【園等】

施 策	内 容
⑬園等における図書 および環境づくり の充実等	・園児の図書環境を充実させるため、保育者や図書ボランティアと協力して、絵本の整理や修理などを行います。 ・読み聞かせを通して乳幼児がおはなしの楽しさを感じ、絵本や物語に親しむ機会を提供します。
⑭家庭への啓発	・家族で読書に触れ合う機会を増やすため、保護者会や参観、園だよりなどを通して、乳幼児期における読み聞かせの大切さを啓発します。 ・発達や年齢に応じた絵本や季節のおすすめ絵本の紹介や、市立図書館で開催されるおはなし会などのイベントの情報提供を行います。
⑮保育者の絵本への 理解と技能力等の 向上	・保育者が絵本の理解をより深め、読み聞かせの手法や選び方、活用の仕方などの技能力向上を図るため、研修会を開催します。
⑯市立図書館との連 携強化	・市立図書館と各園等が連携を図り、本の森探検事業への参加や訪問貸出等を通して、子どもたちがたくさんの絵本に出会い、ふれ合う機会を設けるとともに、市立図書館の魅力を伝えます。
⑰家庭への意識調査	・子どもの視点に立った読書活動が推進できるよう、家庭における子ども読書活動の状況を把握するためアンケート調査を行います。



【小中学校】

施 策	内 容
⑱読書率の向上（不読率の低減）	・子どもたちに読書の意義やよさを伝えるとともに、読書率の向上を目指し、小中学校の実態に合わせた子ども読書活動を行います。
⑲学校司書の専門性の向上	・学校司書の専門性を向上させるため、県が主催する子ども読書の研修会などに参加する機会を提供するとともに、その環境を整えます。
⑳デジタル社会に対応した読書および情報活用の推進	・スマートフォンやタブレット端末などを使用した電子書籍による読書が増加しているため、子どもたちの健康や発達段階等に配慮しつつ、情報活用能力の育成や情報セキュリティ教育等も併せて行います。 ・図書管理の電子化未実施校の電子化を進めます。 ・子どもたちが読んだ本や読書冊数などの記録が確認でき、達成感などが感じられるような読書記録アプリなどの調査・研究を行います。
㉑学校図書館の機能の充実等	・児童生徒が気軽に本と触れ合い、本のよさを知ることができるよう、学校司書の有効な活用を図ります。 ・学校図書館担当者・学校司書・ボランティア・図書委員の児童生徒等が連携し、魅力ある棚づくりなど読書環境の整備を行います。
㉒朝の読書活動	・児童生徒の読書習慣の形成を図るため、すべての小中学校で実施している朝の読書活動を今後も継続的に行います。
㉓教員の図書館教育への理解と技能力の向上	・OJT研修の実施や、校内外研修への参加機会の提供により、子ども読書活動への理解や技能力の向上を図ります。
㉔市立図書館との連携強化	・一人ひとりの読書意欲が高まるよう、訪問貸出、団体貸出、本の森探検事業、ブックトーク事業など市立図書館等と小中学校が連携を図り、小中学校の実態に応じていずれか1事業を実施します。 ・市立図書館と学校図書館が連携し、児童生徒のリクエスト図書や教諭が指導上必要とされる図書等の要望に応えられるよう市立図書館の体制を強化します。
㉕子どもへの意識調査	・子どもの視点に立った読書活動が推進できるよう、子どもの意見や状況を把握するためアンケート調査を行います。

【広報および啓発】

施 策	内 容
②⑥啓発広報活動の推進	・「子ども読書週間」を設け、広報たかしまや、防災無線などさまざまな広報媒体を利用し、子ども読書活動を周知するとともに、その気運を高めます。 ・子ども読書週間中に関係各課が連携し、子ども読書活動の啓発イベントが実施できるよう検討します。
②⑦情報提供	・子ども読書活動事業や本の情報などが、効果的に伝わる情報ツールを用いて、子ども読書活動の情報提供を行います。

【施策の推進方法】

施 策	内 容
②⑧子ども読書活動推進協議会	・関係各課からの状況報告をもとに進捗確認を行い、その成果や課題を分析し、今後における課題解決方法を検討します。

◆第6章 指標の設定

この計画では、子ども読書活動推進計画の推進状況の評価および確認ができる指標として、次のとおり数値目標を設定します。

指標名			現状値 (R6調査)	目標値	担当課
指標1	本を読むことが好きな児童生徒の割合		75.4%	80.0%	全体
指標2	5月の1か月に1冊以上本を読んだ児童生徒の割合(読書率)	小学 4～6年生	96.29%	98.0%	学校教育課
		中学 1～3年生	97.57%	98.0%	
指標3	児童生徒が家庭で1週間に1日以上本を読んでいる割合 ※家読(うちどく)の実施状況		73.7%	75.0%	社会教育課
指標4	乳幼児に読み聞かせをしている保護者の割合		99.1%	99.5%	幼児保育課
指標5	訪問貸出・団体貸出・本の森探検事業・ブックトーク事業の実施		11園等 14校	18園等 19校	図書館
指標6	高島市子ども読書活動推進事業の取組み状況の把握		93.0%	100.0%	全体

資料編

1 子どもの読書活動の推進に関する法律

(目的)

第1条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第2条 子ども（おおむね18歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第3条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第4条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第5条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第6条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

第7条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第8条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第9条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第10条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、4月23日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第11条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するために必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

○衆議院文部科学委員会における附帯決議

政府は、本法施行に当たり、次の事項について配慮すべきである。

- 1 本法は、子どもの自主的な読書活動が推進されるよう必要な施策を講じて環境を整備していくものであり、行政が不当に干渉することのないようにすること。
- 2 民意を反映し、子ども読書活動推進基本計画を速やかに策定し、子どもの読書活動の推進に関する施策の確立とその具体化に努めること。
- 3 子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、本と親しみ、本を楽しむことができる環境づくりのため、学校図書館、公共図書館等の整備充実に努めること。
- 4 学校図書館、公共図書館等が図書を購入するに当たっては、その自主性を尊重すること。
- 5 子どもの健やかな成長に資する書籍等については、事業者がそれぞれの自主的判断に基づき提供に努めるようにすること。
- 6 国及び地方公共団体が実施する子ども読書の日趣旨にふさわしい事業への子どもの参加については、その自主性を尊重すること。

2 高島市子ども読書活動推進計画検討委員会委員名簿

区分	役 職 等	氏 名
委員長	高島市図書館協議会 委員	吉川 宏
副委員長	学校図書館ボランティア	福原 博美
委員	高島市 PTA 連絡協議会 委員	梅村 香子
委員	高島市立図書館 館長	中川美知夫
委員	高島市立マキノ中学校 校長	清水 佳治
委員	高島市立マキノ東小学校 校長	大江 大
委員	高島市保育協議会保育士部会 会長	青木 礼子
委員	高島市子ども未来部幼児保育課 保育参事	西條 雄介
委員	高島市教育委員会事務局教育指導部学校教育課 主監	中原いずみ

(敬称略)

3 計画策定の経過

開催日時		内 容
第1回子ども読書活動 推進計画検討委員会	令和6年 5月31日	・委員委嘱 ・委員長、副委員長選出 ・成果と課題について ・子実態・意識調査の調査内容について
子ども読書活動の推進 における実態・意識調査	令和6年 6月24日～ 7月26日	・児童生徒対象 ・保護者対象 ・子ども読書活動団体
第1回子ども読書活動 推進協議会	令和6年 7月26日	・委員委嘱 ・会長選出 ・基本目標および基本方針について ・施策体系（案）について
第2回子ども読書活動 推進協議会	令和6年 9月9日	・施策体系（案）について ・施策内容（案）について
第2回子ども読書活動 推進計画検討委員会	令和6年 10月30日	・基本目標および基本方針について ・施策体系および施策内容について ・指標の設定について
定例教育委員会	令和6年 11月19日	・素案について
第3回子ども読書活動 推進協議会	令和6年 12月10日	・素案について
市議会全員協議会	令和7年 1月16日	・第4次計画（案）説明
パブリックコメント	令和7年 1月20日～ 2月19日	
第3回子ども読書活動 推進計画検討委員会	令和7年 2月27日	・パブリックコメントの結果について ・計画（案）について
高島市子ども読書活動 推進計画（第4次計画） 策定	令和7年3月	

4 用語解説

知行合一（ちこうごういつ）・・・中江藤樹の教え

人は学ぶことによって、人として行わなければならない道を知ることができる。学んだだけでそれを行わなければ、本当に知ったことにはならない。物事をよく理解して実行してこそ、はじめて知ったことになる。

ブックスタート

赤ちゃんと保護者が一緒に絵本を手にする体験を通して心が触れ合うきっかけや言葉かけの大切さを感じる取組み。海外でも取り入れられている。

ブックトーク

特定のテーマにそって何冊かの本をいろいろな角度から紹介し、本に対する楽しさを知り、興味をもってもらうことを目的とした手法。

本の森探検事業

本に囲まれた空間の心地よさを感じてもらうため、各園や学校などから地域の図書館を訪問すること。

ヤングアダルト

12歳から19歳くらいの「大人になりつつある人」のこと。

りんごの棚

「本が読めない、読みにくいという特別なニーズのある子どもたちのために、読書の喜びを与えたい。」という願いからスウェーデンの図書館で生まれた。この棚には、布の絵本や、点字図書、拡大図書などが置かれている。

高島市子ども読書活動推進計画（第４次）

発 行 令和７年（２０２５年）３月
発行者 高島市教育委員会事務局 社会教育課
〒５２０－１５９２
高島市新旭町北畑５６５番地